

市民等との協働事業

(令和7年度実施)



青梅市

市民安全部市民活動推進課

令和7年度実施 市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ 番号
1	市民安全部	市民安全課	ジェンダー平等担当	ジェンダー平等情報紙発行事業	1
2		市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	3
3				お〜ちゃんフェスタ	5
4				一般向けボランティア講座	7
5				「おそきだより」の発行	9
6			長洲市民センター	長洲市民センター運営協議会	11
7				長洲地区文化祭	13
8			大門市民センター	大門市民センター運営協議会	15
9				大門市民センター文化展	17
10			梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	19
11				梅郷地区総合文化祭実行委員会	21
12			沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会会議	23
13				三田地区総合文化祭	25
14			小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	27
15				小曾木地区総合文化祭	29
16			成木市民センター	成木市民センター運営協議会	31
17				成木地区文化祭	33
18			東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	35
19				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	37
20				第八支会ささえあいフェスティバル	39
21			新町市民センター	新町市民センター運営協議会	41
22				新町末広町地区市民文化祭	43
23			河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	45
24				河辺市民センター文化祭	47
25			今井市民センター	今井市民センター運営協議会	49
26				今井市民センター文化展	51
27				市民ウォーキング	53
28	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ	55
29				おうめ環境ニュース	57
30				みんなで打ち水！	59
31				エコアクション	61
32				エコドライブ運動	63
33				みどりのカーテン事業	65
34				ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊	67
35				多摩川まるごと遊び塾	69
36				がんばれ！あゆっ子2025	71
37				第17回炭焼き体験と水辺の交流会	73
38				霞川でお魚釣り	75
39				親子魚釣り教室2025「さかなを観察してみよう」	77
40				飼い主のいない猫のための「里親会」	79
41				動物愛護週間inおうめ	81
42				さくらねこ無料不妊手術事業	83
43				「生物多様性人材育成講座」地球を知ろう！地球を守ろう！	85
44				霞川で遊ぼう！〜どろ団子にも挑戦〜	87

令和7年度実施 市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ
45	環境部	清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業	89
46		公園緑地課	わくわく公園係	大塚山いこいの森ボランティア	91
47				緑地管理ボランティア	93
48			みどり推進係	青梅の森祉保プロジェクト(青梅の森保全事業)	95
49	健康福祉部	高齢者支援課	いきいき高齢者係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	97
50				高齢者向けスマートフォン教室・パソコン教室開催事業	99
51			包括支援係	認知症サポーター養成研修事業	101
52				青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会	103
53		障がい者福祉課	サービス給付係	青梅市手話講習会および手話通訳者養成講座	105
54			庶務係	青梅市障がい者交流バスハイク	107
55		健康課	健康推進係	第53回おうめ健康まつり	109
56		こども家庭部	子育て応援課	子育て推進係	青梅市ファミリー・サポート・センター事業
57				子育て支援講座事業	113
58				あそぼうよ！ 青梅 外遊び型子育てひろば はらっぱ	115
59				青梅子どもふれあいフェスタ2025	117
60				親子の絆づくりプログラム BP講座	119
61			児童・青少年係	青梅市親子ふれあい事業ポッチャ大会	121
62	地域経済部	シティプロモーション課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	123
63				梅の公園ガイドボランティア事業	125
64	都市整備部	農林水産課	林務水産係	森林環境教育指導者養成講座	127
65		住宅課	住宅政策係	青梅市住宅なんでも相談会	129
66	学校教育部			青梅市定例住宅相談会	131
67		指導室	指導係	学校教育ボランティア	133
68	生涯学習部	社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2025～	135
69				ババマカレッジ～家庭教育講演会～	137
70			図書館管理係	この指とまれ！朗読会	139
71				中央図書館整架ボランティア	141
72				おはなしボランティア	143
73				「本好きたちの読書会」～同じ本を読んでみんなで語り合いましょう～	145
74		文化課	吉川英治記念館担当	青梅市吉川英治記念館秋のライトアップと夜間開館	147
75				地域連携展示『五月人形展』	149
76				地域連携事業『青梅市吉川英治記念館 青梅夜具地展』	151
77				地域連携展示『ひな人形展』	153
78		スポーツ推進課	スポーツ推進係	第58回青梅マラソン大会	155
79	市民提案協働事業	市民活動推進課		青梅ガイドーデジタルデータ&マップ	157
80		環境政策課		災害時ベット同行避難における対応について～避難者も受け入れ側も共に快適空間を創るには～	161
81		企画政策課		令和7年度多摩川ハザードマップ作成&ハザードレクチャー動画制作事業	165
82		健康課		令和7年度青梅の森の恵みとITがつなぐ心と体の健康ミライ事業	169
83		市民活動推進課		和楽倶楽部流笑ってつながる地域の輪	175

協働事業評価シート

事業名称	青梅市ジェンダー平等情報紙編集委員会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NP0法人、青梅商工会議所、市民公募		
担当課・係	市民安全課 ジェンダー平等担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	青梅市における、ジェンダー平等にかかる意識啓発のための情報紙の作成にあたり、市民の意見を反映するとともに、市民の関心と理解を深める。
(3) 実施内容	
	年に2回、ジェンダー平等情報紙「よつばの手紙」を発行する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	協働事業として市民の方に参加してもらうことで、ジェンダー平等社会に向け活動している方や、女性活躍のロールモデルとなる方を発掘するため。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	記事の企画や取材など、情報紙の記事に関する事務。
【青梅市側】	委員会の事務局や記事の編集、市内関係先への配布。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	5	4
	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
青梅市で長い間活躍されてきた方にスポットライトを当てることができ、青梅市で発行している情報紙なので安心感があり、多くの方に知っていただく機会になれたと思います。
【青梅市側】
団体から推薦された委員と公募委員のほか、庁内から部会員を選出し一緒に記事の作成を行うことで、市内の様々な分野で活躍する女性ロールモデルの発掘を行うことができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
ジェンダー平等情報誌という、「誰もが個性と能力を十分に発揮できる社会づくりのための取り組み」という目的を、年度初めに話あえたことでイメージが付きやすかったです。今後も共通の認識としてあるといいと感じました。
【青梅市側】
取材先の都合もあり、スケジュール通りに進まないことがある。記事の作成に時間がかかりすぎると、編集委員との最終確認が、メールでのやり取りで終了してしまうため、余裕を持った委員会運営が必要と考える。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	協働事業市民推進委員会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NP0法人、ボランティア団体、自治会連合会、社会福祉協議会、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。	
(3) 実施内容	
市役所にて委員会を4回開催した（令和7年5月、7月、11月、令和8年2月）。令和7年度は主に市民提案協働事業の見直し案について検討を行った。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
「青梅市における市民活動団体等との協働事業に関する指針」にもとづき委員会を設置し、市民等に意見を求めている。	
(3) 役割分担	
【協働団体側】	提案や意見の提示、意見交換、青梅市の協働事業推進についての評価
【青梅市側】	委員会の事務局、行政側としての意見交換、今後の取り組みの検討

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 協働事業の在り方について、市民の活動状況や地域の実態など出し合いながら、今の制度の課題などを共有できたことはよかったと思います。行政の担当者がほかの行政の実態をまとめた資料を作成し、委員全員で共有した中から新たな仕組みを変更できたことは、令和7年度の成果だったと思います。
【青梅市側】 各種団体からの推薦委員と公募委員からなる委員会で、市内における協働について意見交換を行った。様々な分野で活躍する委員の皆さんから市民活動団体の現状や課題、考えを知ることができる貴重な場として、また、市が抱える課題等について直接意見交換ができる場として大変有意義である。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 「協働とは」の基本的なあり方について、行政も市民も共通の概念が持てるような場を作ることが必要だと思います。協働事業のあり方や方向性、そもそもの協働の意味など、共生社会を掲げる時代の変化を見据えながら、新たな共通認識をつくるときに來ていると思います。
【青梅市側】 「協働によるまちづくり」実現のため、「協働」について共通認識を持つことが重要と考える。課題としては、協働に関する当委員会での協議内容を庁内に浸透させていくこと。事務局としての的確な協議テーマの設定、課題共有のために話し合うことを重視していきたい。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	お〜ちゃんフェスタ	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市社会福祉協議会（青梅ボランティア・市民活動センター）		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、福祉施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。
(3) 実施内容	ボランティア・市民活動団体、福祉団体・施設、企業等によるブース出展、活動紹介・展示、ステージ発表、世界各国のグルメ出店、書道パフォーマンスなど。 令和8年3月29日（日曜日）開催。来場者数4,390人。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	過去に福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたイベントを、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくことになった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業企画・運営、広報活動 【青梅市側】 事業実施に伴う会場・庁内調整、広報活動

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	5	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
【評価】 5：非常によかった 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 今回のお〜ちゃんフェスタは、庁舎1階の使用、ステージを2つにする、飲食店舗の数が増えるなど、従来とは異なる形式で行った。そのため、会場となる市役所の使用方法等について多くの検討が必要となった。市と協働することにより多くの調整が可能となり、本フェスタの適切な実施が可能になったと考える。
【青梅市側】 会場として市役所西側駐車場および庁舎の一部を提供することで、多くの出店数を確保することができる。青梅ボランティア・市民活動センター登録団体を含め、市内の団体のPRの機会とすることができる。市内各種団体との交流の機会となる。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 前述のように、今回はフェスタの内容が大幅に変更となり、その調整等に多くの時間を費やした。市への連絡が遅れたり、当日内容が急に変更になる等、トラブルも生じた。今後は余裕を持った運営を行いたい。
【青梅市側】 実行委員会が組織され、共生を掲げ多様性を前面に押し出すかたちで開催をした結果、活気があるイベントとはなったが「ボランティア・市民活動団体、福祉団体」の印象が薄れたように感じられた。お〜ちゃんフェスタの目的を再確認する必要があると考える。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	一般向けボランティア講座	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市社会福祉協議会（青梅ボランティア・市民活動センター）		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	新たな市民活動・協働の担い手となり得るボランティア・社会貢献活動に興味を持っている市民に活動を始めのきっかけを提供すること、そういった市民に青梅ボランティア・市民活動センター（通称：ボラセン）とその実施する事業を知ってもらうこと。
(3) 実施内容	講座名「ふみだそう！ボランティア活動の第一歩」 開催日：令和7年7月5日（土曜日） 講師：青梅ボランティア・市民活動センター小林理人氏、NPO法人和楽倶楽部理事長相馬健一氏 対象：ボランティア活動に興味がある人（市民に限定せず） 参加人数：17名

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	ボランティアに興味がある人向けの入門講座を開催したいと考え、ボランティアコーディネートを実施しているボラセンに協働を持ちかけた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 広報、講師派遣、講座参加者のアフターフォロー 【青梅市側】 広報、参加者受付、会場手配

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 市と協働したことにより、広報、周知の力が上がったと感じる。また、今回、7月の土曜日に開催したこともあり、今までと違った年代の方や、平日参加できない方が参加できたと思う。このような企画力も、市民活動推進課が関わった効果だと考える。 【青梅市側】 令和7年度は、協働相手であるボラセンの実施事業である「夏！体験ボランティア」の募集期間に合わせ開催した。受講者が講座終了後そのまま申し込みをしていく姿もあり、ボランティア活動の第一歩をふみだす機会になった。市内において長くボランティアコーディネートをを行っているボラセンと課題を共有し実施したからこそその効果と考える。また、本講座により「ボランティアのことならボラセン」と印象づけることができたと評価している。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 参加人数がもっと増えると良いと思った。また、休日に開催したので、若い方がもっと参加してくれると良いと考える。広報や周知の方法はさらなる改良の余地があると思う。 【青梅市側】 令和5～6年度は平日開催、令和7年度は土曜日開催とターゲットを変えて実施したが、参加人数が思うように増えない。アンケート結果を見ると「ボランティアを始めたい！」という受講者が多いため、ボランティアコーディネートに重点を置いた内容を検討したい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	「おそきだより」の発行	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	おそきの学校と地域を考える会		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図る。
(3) 実施内容	
	情報紙の企画立案ならびに取材調査、編集、発行、取材活動を通じた地域課題・動向の把握。 令和7年度は令和8年3月に第44号を発行。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	平成24年度市民提案協働事業に採択された。
(3) 役割分担	
	【協働団体側】 企画、情報収集、編集、発行、配布
	【青梅市側】 経費の負担、配布

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 市民側が主体となり地域情報を取得し地域発信を行うことで、地域状況の変化を市民目線で実施できるとともに、その情報が地域と行政に発信され、地域一体感の醸成や地域活動の推進につながっている。小曾木地区で地域活動を行う団体も増してきており、情報の共有がその一歩を踏み出す私たちにもできるのではないかと心支えになっている部分もあると感じる。
【青梅市側】 行政だけでは収集困難な地域の情報や課題を取り上げることができ、地域住民の目線で地域の状況を伝えることができる。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 新規に活動を開始する団体もあれば、コロナ禍も明けて活動を再開できる団体と、高齢化もあり活動を継続できずに収束に向かう団体が見られる。そんな中、記事の収集、編集作業などに関わる人数が今年度は増して取り組むことができた。今後も、地域の仲間の主体性向上を含めた発行につなげたい。
【青梅市側】 他の地域への波及を期待する。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	長洲市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	市長が委嘱する委員（第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶぎ大学）、公募委員		
担当課・係	市民活動推進課 長洲市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	長洲市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 実施内容	
	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(3) 役割分担	
【協働団体側】	センター運営全般について協議する
【青梅市側】	センター運営全般について協議する

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
市民センターの現状の業務内容や予算、利用者数等について知ることができるとともに、意見交換を通して市民センターの運営等に対し意見、助言等を素直に伝えることができた。
【青梅市側】
市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、センター利用者や地域団体等との意見交換を通して市民センターの運営等に対し意見、助言等を素直に伝えることができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターの効果的な活用 についてについて考えていく機会にしたい。
【青梅市側】
市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターの効果的な活用についてについて考えていく機会にしたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	長洲地区文化祭	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	長洲地区文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 長洲市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	長洲市民センターを利用している自主グループおよび長洲地区において活動している個人や団体の発表の場、長洲地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。
(3) 実施内容	長洲市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体および地域市民の発表の場の創設
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 【青梅市側】 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果があり、市民センターが身近に感じられる大きな要素と考える。 【青梅市側】 利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果があり、市民センターが身近に感じられる大きな要素と考える。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 発表の場所等のより良い機会づくり、参加団体および入場者数の増加方法の検討。 【青梅市側】 発表の場所等のより良い機会づくり、参加団体および入場者数の増加方法の検討。 駒木町、友田町、千ヶ瀬町の方々にも広く参加していただくため、「長洲地区文化祭」の名称変更の検討。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	大門市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	第三支会、大門地区子供会育成会、市民センター利用団体からの推薦者、第三小学校長、かすみ台第一保育園長、公募委員		
担当課・係	市民活動推進課 大門市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民福祉の増進と地域社会の振興を図り市民自らがコミュニティの醸成のため積極的に活用する市民センターを目指し、各種団体から推薦された員の方々と意見交換を行い利用しやすい市民センターを目指す。
(3) 実施内容	大門市民センター2階会議室において、令和7年7月24日および令和8年2月18日の2回開催した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき協議会を設置し、市民等に意見をいただいている。
(3) 役割分担	【協働団体側】 市民センターが担う日常業務について報告を受け意見の申出や提案を行う。利用者の立場で意見や要望を申し出るを行う。 【青梅市側】 市民センターが担う日常業務や施設の貸し出し状況、図書の貸し出し状況、さらには熱中症対策としての『涼み処』不登校児童生徒の学習の場『ふれあい学級分室』などの状況を報告した。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 市民センターの日常業務や施設管理状況、図書の貸し出し状況を知ることが出来た。また、地域住民や施設利用者からの意見や要望を伝えることが出来た。 【青梅市側】 多様な団体からの推薦を受けた委員と公募委員からなる協議会において、センターの日常業務、センター独自の行事や施設管理などについて意見交換を行い、委員や利用者の持つ考えを知る機会となった。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 施設の老朽化が進んでいる中で修繕等の予算確保が難しい状況であるが、有事の際に施設の機能が十分に果たせるような修繕予算の確保に努めてほしい。 【青梅市側】 委員が分かりやすい資料となるよう工夫をして行きたい。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	大門市民センター文化展	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	大門市民センター文化展実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 大門市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	大門市民センター文化展を開催し、大門市民センターで活動する団体（絵画、陶芸、絵葉書など）や近隣小中学校、地域に居住する市民の方々の作品を展示し発表の場とする。
(3) 実施内容	令和7年9月24日に大門市民センター2階会議室にて実行委員会を開催し11月14日に会場準備および展示を行い15日、16日の両日文化展を開催した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	センターで活動する団体の方々が作成した作品を展示する機会として企画し、活動する団体や地域の方々の作品発表の場とするともに会員募集に繋げる。
(3) 役割分担	【協働団体側】 委員会での意見交換を通し会場・展示準備や作品出展、来場者受付、後片付けなどの対応を行った。さらに、来場者への作品説明を通し会員募集などの働きかけを行った。 【青梅市側】 文化展実行委員会事務局、会場・展示準備、センターだよりでの開催周知や近隣小中学校および地域住民への作品募集ならびに来場者案内

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	2	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 より多くの市民の方たちに活動の成果を見てもらうことが大きな励みとなり、今後の創作意欲が高まった。 【青梅市側】 施設利用団体の活動内容を確認でき、利用者との交流を図ることが出来た。来場者からも『このような機会を得て、日頃の努力を知る機会になった』などの感想も聞くことが出来た。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 活動する団体は地域社会と同様に高齢化が進んでいる。もっと多様な世代の方々にご覧いただくとともに会員の募集に繋げる場として活用させていただきたい。 【青梅市側】 より多くの地域の方々に来場いただけるよう周知にも工夫を加え、魅力ある文化展の開催に努める。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	梅郷市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 梅郷市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	梅郷市民センターの運営等についてお知らせするとともにセンター利用者の代表から意見要望をいただく。
(3) 実施内容	
	梅郷市民センターにて運営協議会を年間2回開催し、委員からいただいた意見等は可能な限りではあるがセンターの運営に反映させている。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき協議会を設置。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	センターの運営について把握し利用者の代表として意見や希望を述べる。
【青梅市側】	協議会の事務局としてセンターの運営についてまとめ委員に報告する。報告の結果、委員から出た意見等について検討し対応する。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	
【協働団体側】	市民センターの運営状況や市政を間近で知ることができ、意見をセンターに伝えることができた。
【青梅市側】	市民センターの運営等について把握していただき、地域住民やセンター利用者からの意見を得る機会となった。
(2) 今後の課題および改善事項など	
【協働団体側】	意見を出してもセンター独自の事業は限られる。予算的にも限られて実現に時間がかかりすぐには反映されない。報告等がメインになって形式化しているが地域住民やセンター利用者の意見を伝えるようにしたい。
【青梅市側】	報告等がメインになってきており議題が形式化しているが、地域住民やセンター利用者からの意見を得る貴重な場となっている。今後も意見や要望を伺い市民センターの運営に反映させたい。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	梅郷地区総合文化祭実行委員会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	梅郷地区総合文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 梅郷市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 実施内容	梅郷市民センター利用団体や地域団体等の作品展示や交流を行った。 また、農協の協力により農産物の展示即売や自治会長による模擬店の出店、苗木の配布を行った。また、キッチンカーによる食べ物の提供を行った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	梅郷市民センター利用団体から発表の場を提供して欲しいとの提案があった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 - 文化祭実行委員会に委員として参加して運営方法等を協議する。 - 文化祭会場の設営、運営および片付けをする。 - 展示作品の収集展示および撤収をする。 【青梅市側】 - 文化祭実行委員会の事務局として関係業務を遂行する。 - 文化祭日程の周知案内等集客に努める。 - 展示に必要な物品等の準備

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
段階	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
(P)	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
段階	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(D)	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 - 日頃の活動成果発表の場ができてやる気のアップにつながった。 - 他の団体の方と話ができて刺激をもらったり親睦の場となった。 - 地域住民と久しぶりに会うことができ交流の場として効果があった。 【青梅市側】 利用団体の活動発表の場を作ることで活動に活気が出る。また、協働団体側の希望を伺うなど意見交換することができ効果がある。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 - 来年はより良い作品を展示できるように今後とも活動をする。 - 活動発表の場として会場づくりを工夫する。 【青梅市側】 混雑や換気に注意をしつつ、参加団体および入場者数の増加を図り活気があり楽しめる活動としていく。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	沢井市民センター運営協議会会議	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	沢井市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 沢井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民から率直な意見や助言を受けて相互に議論し、より良い市民センターの運営を行うことを目的とする。
(3) 実施内容	9月と3月、年2回会議を行い、センターの運営状況を報告している。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづき、沢井市民センター運営協議会を設置した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 沢井市民センターの運営について、意見交換および助言をいただく。 【青梅市側】 沢井市民センター運営協議会の事務局であり、委員からの意見、助言をセンターの運営に反映する。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 協議回数は少ないものの、沢井市民センターを運営する行政側の考えを理解するとともに、意見、助言等を率直に伝えることができた。 【青梅市側】 市民からの率直な意見、助言等を受けて相互に議論するとともに、より良い沢井市民センターの運営に向けて行政と市民相互の認識を一致することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 市民としてもっと広い視点で議論を交わす必要がある。また、サービスを受ける側として、沢井市民センターの運営には、市民がもっと積極的にかかわっていくことが重要である。 【青梅市側】 直接市民からの意見、助言等を受け議論する機会を確保することは、行政として重要であり、今後も積極的に市民の意見、助言等をお聞きし、議論する中で、より良い沢井市民センターの運営に繋げていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	三田地区総合文化祭	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市自治会連合会第5支会、三田連合清涼会（高齢者団体）、西東京 農業協同組合二俣尾支店、沢井市民センター利用団体		
担当課・係	市民活動推進課 沢井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地域住民等の文化意識の向上と地域の活性化を図る。また、出品、出展、出演者等との開催協力などを通じて、住民相互のふれあいや、趣味、生きがい等の発見機会を提供する。
(3) 実施内容	農産物の出品、自主グループ等による作品出展、演技披露等を通じて住民相互の交流が図られた。来場者数592人。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	沢井市民センターを利用している各種団体等の作品・演技のほか、地域で栽培した農作物等の観賞および即売会等を通じて、多くの住民等がこの事業に参加するとともに、各種団体等の交流の場を提供し、地域の活性化に繋げる。
(3) 役割分担	【協働団体側】 主催者会議・事前説明会出席、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、会場片付け。 【青梅市側】 主催者会議・事前説明会開催、会場・必要物品の確保、開催通知・広報、会場準備、進行管理、会場片付け。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 自主グループや地域住民の発表の場が広がることで活動の励みとなり、連帯意識も高まる。市民センター利用者間の交流に発展するきっかけとなる。 【青梅市側】 自主グループや地域住民の発表の場が広がることで活動の励みとなり、連帯意識も高まる。市民センター利用者間の交流に発展するきっかけとなる。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 少子高齢化が進む中、利用団体の会員高齢化にともない、今後の活動継続が困難になる恐れがあり、若い世代の参加および来場者を増やす工夫が必要である。 【青梅市側】 少子高齢化が進む中、利用団体の会員高齢化にともない、今後の活動継続が困難になる恐れがあり、若い世代の参加および来場者を増やす工夫が必要である。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	小曾木市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	第6支会自治会長、民生委員、青少年委員、小曾木市民センター利用団体の代表、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 小曾木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	小曾木市民センターの運営等に関する意見を聴取して、より良い市民センター運営を実施するため、協働を推進する。
(3) 実施内容	小曾木市民センターにて、市民センター運営協議会を令和7年8月7日および令和8年2月12日の2回開催して、議事録を市民活動推進課に提出した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民の福祉の増進と地域社会の振興、地域コミュニティの活動の場として、市民センターの運営に反映させるため、青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき協議会を設置して、利用者等に意見を求めている。
(3) 役割分担	【協働団体側】 提案や意見の提示、意見交換、協働事業推進についての評価。 【青梅市側】 委員会の事務局、行政側としての意見交換、今後の取り組みの検討。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 小曾木市民センターの運営を理解するうえで、運営側と意見交換を実施して、利用者側の意見を伝えることができた。 【青梅市側】 地域の多様な利用団体の代表者との率直な意見交換を実施し、今後の事業についても参考となる多くの意見を伺った。今後の課題を整理するうえで有意義であった。 (2) 今後の課題および改善事項など
	【協働団体側】 小曾木市民センターのサービス向上に向けた活発な意見交換の場と考えているが、予算編成等の課題が伴うものについても、意見を反映することができれば、さらに良いと考える。 【青梅市側】 改善可能な意見や課題とともに、施設の適正な運営に不可欠な予算を伴う課題については、計画的に段階を踏んで対処できるよう、現状把握に努め、こまめな修繕等を実施していくこととしたい。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	小曾木地区総合文化祭	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	実行委員会、市民センター利用団体、自主グループ、小・中学校、保育園、高齢者福祉施設、女性防火防災の会、小曾木地区農業者、小曾木っ子の会		
担当課・係	市民活動推進課 小曾木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	小曾木市民センターを利用する自主グループ、団体、高齢者施設入居者等、個人が、活動の成果を発表する場として、実行委員会を組織して、文化祭を開催して、地域の賑わいの創出に貢献している。
(3) 実施内容	作品展示、野産物共進会、六中生徒によるお点前の披露、女性防火防災の会による初期消火訓練（雨天のため中止）、「小曾木っ子まつり」（バルーンアート、百人一首、お囃子、吹奏楽演奏、飲食物の提供）の同時開催

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	小曾木市民センター利用者の作品展示や練習成果の発表の場として、利用団体と市民センターが実行委員会を組織して協働で開催している。
(3) 役割分担	【協働団体側】 作品の出品や練習成果の発表のため実行委員会への参加、前日準備、展示、入場者受付、当日片付けを実施。 【青梅市側】 実行委員会の事務局として、会議開催から準備、開催、反省会に至る事務や作業を実施。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 自主グループや小曾木地区住民、高齢福祉施設等の活動の発表の場として、活動の励みとなり、市民センターの利用が広がり、地域の賑わいの創出につながる効果がある。 【青梅市側】 多様な利用団体と市民センターが協働により実行委員会を組織して、文化祭の開催に向けて協議を重ねて実施することで、小曾木地区の賑わいの創出に貢献していることが、大きな成果である。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 利用団体の会員の高齢化や減少等のため、今後の文化祭の開催についての課題は大きい。一方「小曾木っ子まつり」との同時開催や女性防火防災の会の新たな参加（雨天のため初期消火訓練は中止）、高齢者副施設の展示参加等により、賑わいは創出できた。 【青梅市側】 利用団体の減少や高齢化は、待ったない状況であるが、「小曾木っ子まつり」と同時開催することで、小・中学生、保育園児も参加して、賑わいを協働で創出している。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	成木市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	成木市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 成木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 実施内容	
	8月および3月に会議を実施し、意見を庁内に提出。11月に開催した文化祭に協力いただいた。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき設置し、委員に意見を求める。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	意見の提示、助言および評価。
【青梅市側】	協議会の事務局、行政側としての意見交換、今後の検討。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	5
実施段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によかった 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	
【協働団体側】	利用者の増加や地域に貢献しようとする職員たちの努力を感じることができる。 事業や通常業務の内容、課題を詳細に聞くことができ、自由な意見や助言が可能な機会となっている。
【青梅市側】	多様な利用団体からの委員および公募委員から、市民センターの効率的な運営状況に理解を得ることができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	
【協働団体側】	課題は感じられない。
【青梅市側】	体育館における空調、破損した場合に申告されないことへの対応を問われ、検討することとなった。 、

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	成木地区文化祭実行委員会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	管内の自治会、成木保育園、成木小学校、成木小学校PTA、第七中学校、第七中学校PTA、農業者振興会、農産物共進会、市民センター利用団体、成木地域の文化活動実施者、成木地域の福祉施設		
担当課・係	市民活動推進課 成木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	地域市民の交流やふれあいをより一層深め、その親睦を図る。
(3) 実施内容	
	文化祭当日の令和7年11月8日（土）・11月9日（日）の2日間に加え、成木市民センターにて実行委員会を令和7年8月7日（木）、令和7年10月9日（木）、令和7年11月20日（木）の3回開催。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	開始時期、開始のきっかけは不明。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	実行委員会での協議、開催当日までの準備、当日の運営、片付け。
【青梅市側】	実行委員会の開催、行政側としての協議参加、開催当日までの準備、当日の運営、片付け。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 各団体との年に一度の協働行事として定着している。企画の段階から誰でも自由な意見を交わすことができている。団体間の関係が良好になり、知人が増え、地域のコミュニティが育まれている。 【青梅市側】 地域住民や利用団体との良好な関係を築くことができる。また、住民間の交流が深まり、災害等の有事には、助け合い（共助）に大きな効果が期待でき、市など（公助）の負担軽減につながるものと考えられる。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 課題は感じられない。 【青梅市側】 課題は感じられない。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市自治会連合会第八支部、青少年健全育成第八支部地区委員会、青梅市スポーツ推進委員、東青梅老壮大学、青梅市青少年委員、体育系サークル東青梅健康体操クラブ、NPO法人青梅こども未来、青梅女性防火防災の会第8支部、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 東青梅市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	東青梅市民センターの効果的な活用を検討するため。
(3) 実施内容	
	東青梅市民センターにて東青梅市民センター運営協議会を令和7年8月7日および令和8年2月5日の2回開催 運営協議会での意見を議事要旨として稟議にて庁内へ提出

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづき運営協議会を設置し、各種団体や市民等に意見を求めている。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	提案や意見の提示、意見交換、行政の取り組みに対する評価など
【青梅市側】	運営協議会の事務局、行政側としての意見交換、今後の取組の検討。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	3	3
	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	
【協働団体側】	
	行政に対し、利用者の視点から意見や要望を伝えることができた。
【青梅市側】	
	各種団体の推薦委員や公募委員との意見交換により、現状や課題を認識することができた。今後の取組検討においても意見交換できる場として貴重である。
(2) 今後の課題および改善事項など	
【協働団体側】	
	今後とも、利用者の声を反映したものとなるよう運営に関わっていくことが必要と考える。
【青梅市側】	
	今後とも、市民の意見等を伺い議論する中で、より良い市民センターの運営に繋げていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	自治会連合会第八支会、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 東青梅市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
当センターを利用している文化活動団体と地域住民の発表の場および来場者が文化作品に触れる場を設ける。	
(3) 実施内容	
令和7年10月4日および5日の2日間、当センターの体育館内で作品展示と舞台発表の場を設けた。なお、5日は第八支会のささえあいフェスティバルを同時開催した。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
例年行っている事業であり、団体および地域住民の活躍の場を設けるため。	
(3) 役割分担	
【協働団体側】 説明会・反省会での意見交換、当日自ブースでの作品見守り、来場者へのご案内。持ち回りで一部団体に来場者受付を行っていただく。	
【青梅市側】 実行委員会事務局、作品以外の物品準備、当日運営、反省会・アンケートを通して改善を図る。	

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 自治会・施設利用団体・市で協同で行うことで文化祭を盛り上げることができた。活動内容について来場者に理解いただけてよかった。団体の会員の高齢化と会員数減少があり、活動の継続が危ぶまれるような団体も増えているため、活動発表の場兼会員募集の場としても利用する。
【青梅市側】 施設利用団体の組織の現状把握と活動内容を把握することができ、団体との交流も図ることができた。また、地元自治会の会員の文化活動の状況を見ることができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 2日目は外が盛り上がっていたため、中も同じぐらい盛り上がるという。椅子を増やしたり、来場者が不便を感じない工夫をしたい。来年さらによりよくしたい。
【青梅市側】 昨年度の課題はほぼ改善できたが、椅子の不足については今年度も反省会の意見としてあがったため、外部からの追加借用を検討する。今後も課題や反省点について改善案を考え、よりよい事業にしたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	第八支会ささえあいフェスティバル	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	自治会連合会第八支会		
担当課・係	市民活動推進課 東青梅市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地域の活性化およびこれからの自治会活動や加入促進に生かすことができる。また、歴史と文化に関する授業を通じて地域に愛着を持つ子どもたちが増え、次世代につなげることができると同時に、世代間交流と地域社会における子どもたちの新たな先生（自治会長）との関係づくりができるよう、学校を含め地域の各種団体と連携を深め、地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指すため
(3) 実施内容	東青梅市民センターにて令和7年10月4日（土）、5日（日）に実施。展示、演技披露、模擬店等を実施。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	学校を含め地域の各種団体と連携を深め、地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指すため
(3) 役割分担	【協働団体側】 イベント実施 【青梅市側】 イベント実施補助

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 第八支会では、学校を含め地域の各種団体と連携を深め、地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して日々活動しており、各自治会や地域の団体の活動内容などを多くの来場者へ周知することができた。 【青梅市側】 東青梅市民センターコミュニティ文化祭と同時開催をすることにより、多くの観覧者に来場していただき、様々な活動内容を知っていただけた。また、協働相手と共に活動することにより会場設営や片付けなどの労力を効率的に運営することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 この事業を継続することにより、地域の活性化および自治会への加入促進につなげていきたい。 【青梅市側】 参加事業内容を精査し部会等で改善点を検討することにより、地域住民に対し、より魅力ある事業になるよう努めていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	新町市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	第九支会、青少年新町地区委員会、青梅市スポーツ推進委員、小学校PTA、中学校PTA、利用団体代表、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 新町市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討
(3) 実施内容	新町市民センターにて、令和7年8月7日（木）および令和8年3月5日（木）の年2回開催 協議会の意見をセンター運営に反映する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	市民センター運営協議会設置要綱
(3) 役割分担	
	【協働団体側】 ①市民センター運営について検討・協議 ②文化祭の企画運営
	【青梅市側】 ①センター事業の実施状況、利用人数などを報告 ②運営協議会での協議検討結果をセンター運営へ反映

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によかった 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 地域住民や施設利用者からの意見や要望を市民センターに直接伝え、それを運営に反映させることで、施設のサービス向上や地域に根差した運営が実現できました。これにより、利用者と運営側の連携が深まり、より良い環境づくりにつながりました。
【青梅市側】 市民が協議会に参加することで、自治への関心が深まり、地域運営に対する責任意識が醸成されます。こうした意識の向上がさらなる市民参加を呼び込み、地域の活性化や自治体運営の充実へとつながっていくと考えます。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 自治会の会員離れや高齢化が進む中、住民が地域活動に参加しやすい仕組みづくりが求められています。コミュニティ活性化には、住民の関心を引き、参加を促す工夫が重要と思います。
【青梅市側】 市民協議会やセンター活動への参加促進には、若い世代や働く層への配慮が重要です。オンライン活用や家族・子ども向けイベントなど、参加しやすい工夫を通じて幅広い世代の関心を集めることが求められると思います。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	新町末広町地区市民文化祭	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	新町末広町地区市民文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 新町市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	文化祭は、センター利用団体などが行う文化活動の発表の場であるとともに、地域住民が交流する貴重なふれあいの場でもある。このイベントを通じて、センターに来館し活動することで、地域住民の交流を促進し、地域コミュニティの活性化を図ることを目指している。
(3) 実施内容	新町市民センターにて令和7年11月8日・9日実施 参加団体19団体、個人1人 来場者2日間合計 550人

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中の団体へ地域発表の場を提供するため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う 【青梅市側】 実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備をする。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 文化祭を通じた行政との協働は、良好な関係を築き、未来の活動における協力を得やすくする重要な機会である。これにより、地域や団体の成長と活動の幅を広げることが期待できる。 【青梅市側】 文化祭を通じて市民と行政が共に活動することで、地域コミュニティのつながりが深まります。この協働によって、市民同士の絆が強まるだけでなく、行政との信頼関係が育まれます。その結果、地域の日常的な活動への関心と参加意欲が高まり、より活気ある地域づくりが進んでいきます。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 集客が減っている原因としては、来場者にとってあまり興味を引く内容が少ないことが考えられる。訪れる人たちの好みや関心をもっとよく理解して、それに合った企画を作ることが大事です。面白くて魅力的な内容にすれば、お客さんが満足して「また来たい」と思ってくれたり、他の人にすすめてくれたりするので、結果的に集客は伸びていくと考える。 【青梅市側】 マナー化や来場者減少への対応として、新しい視点を活かした企画を導入し、魅力的な催し物を開催することが求められます。今回はJA西東京新町支店によるこどもイベントを行いました。また、他の催しなど新規参加者を募り、イベントに新たな活気を生み出す工夫が必要です。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	河辺市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	河辺市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 河辺市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	協議会を設置し委員の意見を求め、市民センターの効果的な活用を検討するため。
(3) 実施内容	
	河辺市民センターにて運営協議会を令和7年6月および令和8年2月の2回開催し、施設の利用状況や設備改修予定などを報告し、委員の意見を求めた。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづく
(3) 役割分担	
【協働団体側】	市民センターの効率的な活用方法の提案、協力
【青梅市側】	会場準備、日程調整、資料作成 協議会意見等にもとづき、市民センターの運営に活用する。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	2	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	2	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
協働のメリットである対等な立場で話し合いをすることができ、緊張することなく積極的に意見を出すことができた。
【青梅市側】
市民センターと地域住民、市民センター利用者との交流・意見の場となり、それぞれが対等の立場で議論することにより、市民センターの効率的な運営に役立てることができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
協議会は年2回実施、いずれも土曜日の午前中に実施しているため欠席委員も多く、すべての委員からの意見が聞けないこと。また職員側も通常業務に携わる職員は出席できてない。 様々な意見を出したが、施設の改善など予算を伴う案件などは実現されず、折角の運営協議会を組織していても意見集約に留まることが多い。
【青梅市側】
委員よりいただいた意見が市民センターの効率的な運営に役立つ半面、施設の改修など予算を伴う案件については、意見が反映されないことが課題である。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	河辺市民センター文化祭	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	河辺市民センター文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 河辺市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民センターを利用する団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。
(3) 実施内容	河辺市民センターの利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年健全育成第10支会地区委員会、食育クラブの模擬店出店等にかかる計画、調整と実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	河辺市民センターで活動中のサークルの発表の場として文化祭を協働で実施してはどうかと市側から提案
(3) 役割分担	【協働団体側】 作品出展、演技披露、模擬店出店、会場準備、片付け、来場者受付、駐車場管理 【青梅市側】 参加団体の募集、日程調整、会場確保、展示用資材や音響設備等の提供、プログラム作成、許認可申請手続、広報

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	3	3
	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 市民センターを利用する団体や自治会などで組織された文化祭実行委員会形式を取り入れてることにより、文化祭開催に向けて対等に意見を出し合うことができ、協働で行うことのメリットを感じた。 【青梅市側】 場を提供することにより、利用者とのコミュニケーションが図られた。市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 実行委員会のメンバーが高齢化などにより、力仕事を伴う準備、片付けなどが負担であると感じた。前年度の反省点を生かし、効率よく会場設営等を行うことができた。 【青梅市側】 参加団体、地域住民参加がやや減少傾向であること。参加団体のメンバーの高齢化などにもよるが、開催日数の変更など参加団体への負担軽減を図っていく必要を感じた。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	今井市民センター運営協議会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	今井市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 今井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	今井市民センター運営を適正かつ効果的に行うことを協議するため。
(3) 実施内容	
	今井市民センターにて令和7年7月23日および令和8年2月4日の2回開催

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	市民センター運営のあり方を協議・検討する。
【青梅市側】	委員会の事務局。必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に用いる。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によかった 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
施設利用者、地域住民からの意見や要望を行政に伝えることができた。また、市民センターの運営状況等を理解することができた。
【青梅市側】
市民センターのあり方や運営状況について理解いただくとともに、地域住民の意見や要望を聞くことによって市民センターの運営に反映することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
行政の報告等を踏まえ、センターの運営について利用者の率直な意見や要望を伝える。
【青梅市側】
当協議会では報告が主であり、議題が形骸化している部分がある。市民センターのあり方等について、地域の意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させていく。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	今井市民センター文化展	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	今井市民センター		
担当課・係	市民活動推進課 今井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	今井市民センターを利用している団体の活動成果や、地域の老人施設・保育園で過ごしている人達の作品を地域住民に紹介するとともに、市民センターを地域交流の場ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げさらに深めることを目的とする。
(3) 実施内容	令和7年10月25日および26日の2日にわたって7団体の作品展示の場を設けた

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体の活性化や、地域にある高齢者施設並びに保育園利用者の活動の活性化を図るため
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会により会場の配置図を作成し、自治会の協力を得ながら各団体で会場設営を行う。 【青梅市側】 実行委員会の事務局として、会場の確保展示用具等の提供。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 青梅市とともに活動することで、より多くの市民の方たちに活動の成果を見てもらうことができた。また、地域住民の交流の場としての効果がある。 【青梅市側】 施設利用団体の活動把握と交流が図れる事業である。市民センターの存在を参加団体や出品者を通じて広く市民に周知できるので、継続的に実施していくことが望ましいと考える。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 参加団体が少なくなってきたのでこれ以上減少させないようにする。可能であれば、参加団体を一つでも多くすることが課題。 【青梅市側】 参加団体の減少が課題。市民センター事業で作品を作り、その作品を文化展に出展したり、文化展当日に体験型のイベントなどを盛り込むなどの環境づくりを行う。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	市民ウォーキング	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市自治会連合会第11支会		
担当課・係	市民活動推進課 今井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民の体力増進、健康保持を目的に、地域の名所旧跡で歴史に触れ、地域の連帯と市民の交流、親睦を図る。
(3) 実施内容	今井市民センターを出発し、水窪公園、藤橋城址、宝泉寺へと歩き（約5.2km）、休憩等を含めて約2時間30分で市民センターへ戻った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	第11支会と市の協働としての事業をすべきとのことから実施した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 コース選定について協議、調整をして、当日は団体側も一緒にウォーキングに参加した。 【青梅市側】 コース選定について協議、調整をして、当日は団体側も一緒にウォーキングに参加した。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 市民の体力増進や健康保持と合わせ、参加者相互の親睦が図れる。 【青梅市側】 本事業は、行政と地域や地域間の親睦と協力を深めることができる事業であり、参加も容易なので、継続的に実施していくことが望ましいと考える。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 より多くの市民の参加が課題である。 より魅力ある新たなコースの検討が必要である。 【青梅市側】 より多くの市民の参加が課題である。 より魅力ある新たなコースの検討が必要である。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	おうめ環境フェスタ	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	おうめ環境市民会議		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと。
(3) 実施内容	市内市民団体によるパネル展示および市内図書館内における環境関連図書コーナー設置、講演会の実施、おうめ環境マップの作成・配布

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業原案、会場設営、展示物提供、当日の運営全般、講師の選任・依頼等 【青梅市側】 事業内容に関する協議と広報等のメディアによる募集、会場・事業予算の確保等

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 1、全市民への広報 2、会場の確保 3、会場設備等の設定 4、担当職員との交流 【青梅市側】 コロナ前に実施していた1点集客型の事業を見直し、年間を通じた環境啓発事業として実施することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 年度ごとの基本計画、イベント等の相互確認（打ち合わせ、会議等の適時声掛け発信） 【青梅市側】 おうめ環境マップについて、11月の発行を予定していたが、12月にずれてしまった。通常と違う期間であったことから、景品を引き換えに来庁された方が少なくなってしまった。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	おうめ環境ニュース	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	おうめ環境市民会議		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	市民感覚を取り入れた市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 実施内容	
	紙面の構成や内容について協議をし、11,000部発行した。公共施設や市内の小中学校に配布した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	平成19年度におうめ環境市民会議から提案を受け協議開始
(3) 役割分担	
【協働団体側】	記事の作成
【青梅市側】	記事の作成、レイアウト原案、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
青梅市環境政策課が監修発行し市内の学童に配布する公の偏りのない立場からの情報として信頼度が担保される
【青梅市側】
身近な環境問題について、小・中学生に考えてもらう機会になった。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
正当な理由・根拠の説明や意見交換無しに原稿案の主要部分が削除された
【青梅市側】
小・中学校から、配布方法を紙ではなく電子にすることを希望する声もあり、配布のやり方について考える必要がある。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	みんなで打ち水！	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	
	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体や事業者と共に、事務所などの打ち水を通じた省エネの取組を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	環境問題に関する広範な取組の連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取組として、「みんなで打ち水」に取り組んだ。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	打ち水の実践
【青梅市側】	周知活動

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 省エネルギー対策を推進するうえで、市民一人ひとりの取り組みが重要になってくる。 打ち水は、古くから涼をとるために利用されてきた手軽かつ環境にやさしい方法であるため、省エネ活動としての効果だけでなく、市民の環境意識向上にも寄与している。（青梅市との意見集約であり、青梅市側と同意見） 【青梅市側】 省エネルギー対策を推進するうえで、市民一人ひとりの取り組みが重要になってくる。 打ち水は、古くから涼をとるために利用されてきた手軽かつ環境にやさしい方法であるため、省エネ活動としての効果だけでなく、市民の環境意識向上にも寄与している。（環境連絡会との意見集約であり、環境連絡会側と同意見）
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 打ち水についてホームページやSNSで周知するとともに、国等の啓発ツール（画像・動画・チラシ等）を活用し、更なる事業浸透に努めたい。（青梅市との意見集約であり、青梅市側と同意見） 【青梅市側】 打ち水についてホームページやSNSで周知するとともに、国等の啓発ツール（画像・動画・チラシ等）を活用し、更なる事業浸透に努めたい。（環境連絡会との意見集約であり、環境連絡会側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

事業名称	エコアクション	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	カーボンニュートラル実現に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体や事業者と共に、事務所や家庭において二酸化炭素排出量の削減につながる行動である「エコアクション」を実践した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	カーボンニュートラル実現に向けた取組の拡大を目的として、クールビズ運動等の協働事業を実施してきた環境連絡会に対して、これまで市役所内で実践してきた「職員エコアクション」の取組を協働事業とすることを提案し、了承いただき、実施に至った。
(3) 役割分担	【協働団体側】 エコアクションの実践 【青梅市側】 企画と周知、実践結果の集約

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 市内での省エネルギー対策を推進するにあたっては、事業者や家庭などを巻き込んだ活動が重要である。 「エコアクション」の取組例を公開することで、家庭や職場で身近に実践できる取り組みを再発見でき、市民の環境意識向上に繋がっている。（青梅市との意見集約であり、青梅市側と同意見）
【青梅市側】 市内での省エネルギー対策を推進するにあたっては、事業者や家庭などを巻き込んだ活動が重要である。 「エコアクション」の取組例を公開することで、家庭や職場で身近に実践できる取り組みを再発見でき、市民の環境意識向上に繋がっている。（環境連絡会との意見集約であり、環境連絡会側と同意見）
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 エコアクションの取組内容については、引き続き継続的な周知啓発が重要であるが、社会や環境の変化を踏まえ、適宜内容を見直すことが必要になる。（青梅市との意見集約であり、青梅市側と同意見）
【青梅市側】 エコアクションの取組内容については、引き続き継続的な周知啓発が重要であるが、社会や環境の変化を踏まえ、適宜内容を見直すことが必要になる。（環境連絡会との意見集約であり、環境連絡会側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

事業名称	エコドライブ運動	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	
	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体や事業者と共に、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	環境問題に関する広範な取組の連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取組として「エコドライブ」に取り組んだ。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	エコドライブの実践
【青梅市側】	啓発物品（ステッカー）の配布、広報等のメディア展開

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によかった 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 エコドライブ運動は、燃料消費量や二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化防止に繋がる取り組みである。エコドライブの取組10項目を公開することで、市民一人ひとりの環境意識の向上や運転マナーの改善に役立っている。（青梅市との意見集約であり、青梅市側と同意見） 【青梅市側】 エコドライブ運動は、燃料消費量や二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化防止に繋がる取り組みである。エコドライブの取組10項目を公開することで、市民一人ひとりの環境意識の向上や運転マナーの改善に役立っている。（環境連絡会との意見集約であり、環境連絡会側と同意見）
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 エコドライブ運動は環境にやさしいだけでなく、心にゆとりを持って走ることで交通事故の削減にも繋がり、同乗者が安心できる安全な運転であることを、さらに周知していきたい。（青梅市との意見集約であり、青梅市側と同意見） 【青梅市側】 エコドライブ運動は環境にやさしいだけでなく、心にゆとりを持って走ることで交通事故の削減にも繋がり、同乗者が安心できる安全な運転であることを、さらに周知していきたい。（環境連絡会との意見集約であり、環境連絡会側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

事業名称	みどりのカーテン事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 実施内容	
	市内の一般家庭および事業者を対象とするみどりのカーテンモニターへのゴーヤの苗の配布を実施した。また、一般家庭および事業所を対象にみどりのカーテンコンテストを実施し、11月2日の産業観光まつりで表彰式を行った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	青梅ガス（株）から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。 その後、青梅ガス（株）を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	副賞代の提供、審査の協力
【青梅市側】	周知活動（広報・ホームページ）および受付等の事務

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	5
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
記載なし
【青梅市側】
みどりのカーテン事業全体を通じて、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
応募者人数の報告だけではなく、新規、リピーターの人数等も教えていただければ今後の検討課題となると思いますので検討よろしくお願いします。
【青梅市側】
みどりのカーテンコンテストの審査員を西東京農業協同組合の営農指導員の方に毎年依頼をしているが、後任がおらず、以前勤めていた方に依頼を行っている。依頼をしている方が高齢のため、後任を見つけない。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅・多摩川水辺のフォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験型学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。
(3) 実施内容	川での安全な遊び方教室、魚のつかみ取りから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 市民側では企画、運営および小学校との連携を主な役割とした。行政側は広報、ライフジャケット準備などを実施。広報に関しては広報誌に写真付きで大きく載せたり、青梅市LINEで発信したりと、大きな宣伝効果、集客に繋がった。また一般受付を行政側で行い、問題なく対応いただいた。また、当日の気温がとても高く、気温を確認しながら小まめに水分補給したり日陰で休憩したり、様々な面でご協力いただいた。 【青梅市側】 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。 (2) 今後の課題および改善事項など 【協働団体側】 近年、気温が高くなっており、地面も熱くなっている。タープによる日陰作りだけでなく、熱い地面への対策も必要。また、申込者が何を見て申し込んでいるのか、確認するスキームとなっていない（広報誌や青梅市LINE、市民側のホームページやFacebook、配布チラシなど）。それを確認することで、様々な広報活動の効果を把握でき、今後に向けた見直しや強化に繋がられる。申込時もしくは当日のアンケートで、行政側で把握して欲しい。 【青梅市側】 特になし
-------------	---

5 事業の様子（写真等）



事業名称	多摩川まると遊び塾	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅・多摩川水辺のフォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体験することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。
(3) 実施内容	川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館（多摩川に棲む魚等の展示や解説）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年度に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 市民側では企画、運営および小学校との連携を主な役割とした。行政側は広報、ライフジャケット準備などを実施。広報に関しては広報誌に写真付きで大きく載せたり、青梅市LINEで発信したりと、大きな宣伝効果、集客に繋がった。また一般受付を行政側で行い、キャンセル待ちが発生するも、申込者に状況を伝え、問題なく対応いただいた。昨年度同様に少し下流の場所を使用するにあたり、安全性を含めて判断してもらえた。 【青梅市側】 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 申込者が何を見て申し込んでいるのか、確認するスキームとなっていない（広報誌や青梅市LINE、市民側のホームページやFacebook、配布チラシなど）。それを確認することで、様々な広報活動の効果を把握でき、今後に向けた見直しや強化に繋がられる。申込時もしくは当日のアンケートで、行政側で把握して欲しい。 【青梅市側】 特になし

5 事業の様子（写真等）



事業名称	多摩川まると遊び塾	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅・多摩川水辺のフォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体験することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。
(3) 実施内容	川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館（多摩川に棲む魚等の展示や解説）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年度に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 市民側では企画、運営および小学校との連携を主な役割とした。行政側は広報、ライフジャケット準備などを実施。広報に関しては広報誌に写真付きで大きく載せたり、青梅市LINEで発信したりと、大きな宣伝効果、集客に繋がった。また一般受付を行政側で行い、キャンセル待ちが発生するも、申込者に状況を伝え、問題なく対応いただいた。昨年度同様に少し下流の場所を使用するにあたり、安全性を含めて判断してもらえた。 【青梅市側】 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 申込者が何を見て申し込んでいるのか、確認するスキームとなっていない（広報誌や青梅市LINE、市民側のホームページやFacebook、配布チラシなど）。それを確認することで、様々な広報活動の効果を把握でき、今後に向けた見直しや強化に繋がられる。申込時もしくは当日のアンケートで、行政側で把握して欲しい。 【青梅市側】 特になし

5 事業の様子（写真等）



事業名称	がんばれ！あゆっ子2025	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	霞川くらしの楽校		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメ、ニジマスのかみ取り

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 参加者募集が市の広報で市民に周知されたことで、事業の信頼度が上がり、参加者が安心して参加してもらえた。応募受付も環境政策課ですることによって気軽に応募する事が出来た。（参加者の言葉） 【青梅市側】 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。 (2) 今後の課題および改善事項など
	【協働団体側】 長期にわたり行なってきた事業だけに内容が同じものの繰り返しになってきている。参加者が川や自然に対する感性を磨けるような事業内容にしなければならない。なかなか遡上して来れない江戸前鮎以外にも、もっと身近に目の前に棲息する生き物にも目をむけてもらい、それらを保護していくことが大事なことだということも、周知していきたい。 【青梅市側】 特になし

5 事業の様子（写真等）



事業名称	霞川でお魚釣り	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	霞川くらしの楽校		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	魚釣り、釣った魚の観察・解説

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	通年の様々な川遊びを子どもたちに継承したいとの提案があり、実施した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 ☆広報で広く募集でき、申し込み受付もお願いでき、準備に専念できた。☆西多摩建設事務所に草刈りをお願いできることで実施可能。☆バケツの水汲みなど手が足りないところをお手伝いいただき大変助かりました。☆アンケート作成・集計していただきとてもはげみになりました。
【青梅市側】 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 ☆人数が定員いっぱいだと場所がもう少し広い方がよい？区域と竿の長さ要検討。☆長靴は霞川くらしの楽校が準備した方がよいですか？
【青梅市側】 特になし

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	親子魚釣り教室2025「さかなを観察してみよう」	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NP0法人奥多摩川友愛会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	渓流釣り未経験の参加者に、釣りを通じた自然体験をしてもらうのと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

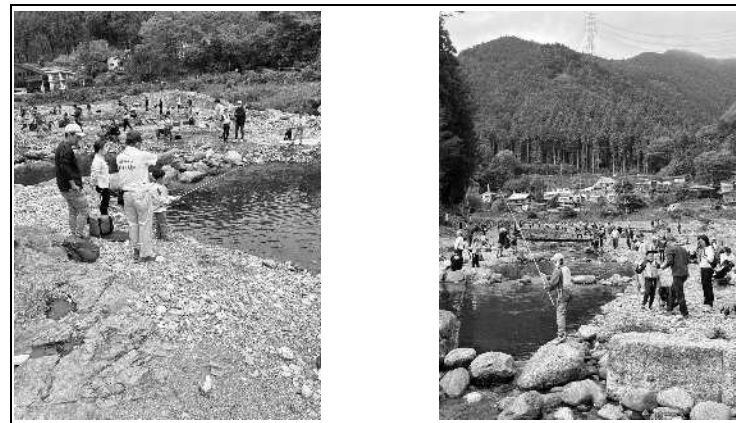
		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 参加者募集が市の広報で市民に周知されたことで、事業の信頼度があがり、参加者が安心して参加してもらえた。応募受付も環境政策課ですることのできることで気軽に応募する事が出来た。 (参加者の言葉) 【青梅市側】 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 もっともっと、親子で相談して協力して釣りをしてもらいたい。釣れなくなると子供は飽きて川遊びを始め、その代わりに親が竿を持ってしまうのを出来るだけ抑制し、親子で語り合い釣れなくなったらどうしたら釣ることができるのか、親から子へ作戦を伝授して釣りを楽しんでもらうよう指導したい。また、生きているものを釣るということで、ゲームとは違う生き物との駆け引きの体験をしてもらえるように改善していきたい。 【青梅市側】 特になし

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	飼い主のいない猫のための里親会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	おうめ猫の会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	里親会を開催し、責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つける。
(3) 実施内容	青梅市役所にて合同里親会を2回実施 カインズ青梅インター店くみまちコミュニティスペースにて里親会を9回実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	団体等からの提案
(3) 役割分担	【協働団体側】 当日の運営等 【青梅市側】 広報等による周知、会場準備

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 行政とボランティア団体の意思疎通が大変うまくいっている。
【青梅市側】 ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、団体の活動内容も紹介することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 保護猫活動に関する周知の拡充
【青梅市側】 動物愛護に関する講演会の実施や保護猫活動に関する周知の拡充

5 事業の様子（写真等）



事業名称	動物愛護週間inおうめ	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	おうめ猫の会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(3) 実施内容	動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示会の実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から新たな協働事業として提案があった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 活動紹介に関する展示ブースの運営
	【青梅市側】 広報などによる周知、会場準備

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 野良猫の減少
	【青梅市側】 市民に対する啓発
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 通院の人員確保
	【青梅市側】 ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、団体の活動内容も紹介することができた。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	おうめ猫の会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	公益社団法人どうぶつ基金から受領した「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」を使用し市内の飼い主のいない猫の捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 実施内容	野良猫に関する相談があった場合の、TNR活動（不妊去勢手術後元の場所に戻す活動）の検討

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人どうぶつ基金の「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることが分かったため
(3) 役割分担	【協働団体側】 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 【青梅市側】 公益社団法人どうぶつ基金へ「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 野良猫の減少 【青梅市側】 飼い主のいない猫の著しい減少
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 通院の人員の確保 【青梅市側】 市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対して、エサやりの方法や地域猫活動について広報等を活用し、継続して周知するようにしたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	「生物多様性人材育成講座」地球を知ろう！地球を守ろう！	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	美しい多摩川フォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、次世代のリーダー育成を目的とする。
(3) 実施内容	令和7年8月4日に福祉センター2階第1・2集会室にて、生物多様性に関する育成講座を実施。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、市から市民団体に協働提案した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 講師の提供、講演資料の作成 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報、小・中学校向けチラシによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 事業実施に際し、当フォーラムより講師を紹介させていただき、当フォーラム会員に講座内容を告知するなど、役割分担を明確にして連携して実施することができた。講座のタイトルを親しみやすい言葉に変え、「広報おうめ」に募集記事を掲載していただき、参加人数の増加につながった。 【青梅市側】 子どもたちが、生物多様性について考えるきっかけになることができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 地球の歴史を知り、地球の将来や環境について考える良い機会になったと考える。シリーズ化して内容の更なる充実化を検討したい。 【青梅市側】 例年実施するにあたり、いくつかテーマを設ける等工夫が必要。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	霞川で遊ぼう！～どろ団子にも挑戦～	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NP0法人奥多摩川友愛会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	川遊び・草笛・どろ団子づくり

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	通年の様々な川遊びを子どもたちに継承したいとの提案があり、実施した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 ☆広報で広く募集でき、申し込み受付もお願いでき、準備に専念できた。☆西多摩建設事務所に草刈りをお願いできることで実施可能。☆バケツの水汲みなど手が足りないところをお手伝いいただき大変助かりました。☆アンケート作成・集計していただきとてもはげみになりました。 【青梅市側】 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。 (2) 今後の課題および改善事項など
	【協働団体側】 ☆人数が定員いっぱいだと場所がもう少し広い方がよい？区域と竿の長さ要検討。☆長靴は霞川くらしの楽校が準備した方がよいですか？ 【青梅市側】 特になし

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅点訳グループ		
担当課・係	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	視覚障がい者のうち、点訳された「資源物・ごみ収集カレンダー」を必要とされる方のために、点字版を作製し配布する。
(3) 実施内容	令和8年度版「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳版の作製（窓口用A～H地区8種類各1部、資源物・ごみの出し方1部、分別一覧1部）、視覚障がい者の希望者3名分の作製・配付。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	団体等からの提案。資源物・ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 【青梅市側】 広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によかった 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 希望する方に期限を守り届けることができた。 点字版資源物・ごみ収集カレンダーの周知方法を引き続き考えていただきたい。
	【青梅市側】 点訳を行うには専門的な知識が必要となることから、専門知識を有する業者に業務委託が必要となり、相応の費用が必要になるという課題がある。点訳を専門とする青梅点訳の会が作製し、市が周知および送付をするという役割分担を担うことで用紙代等の消耗品費の負担だけで効果的な事務ができる。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 より多くの方に点字版資源物・ごみ収集カレンダーの存在を知っていただく為の方法を今後も話し合っていきたい。
	【青梅市側】 「資源物・ごみ収集カレンダー」の点字版については、広報おうめ等で周知を図っているところだが、点字版の存在を知ってもらうため、周知の拡大が課題である。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	いこいの森を育てる会（近隣5自治会・青梅市立第四小PTA・青少対第8地区委員会）		
担当課・係	公園緑地課 わくわく公園係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	・大塚山いこいの森の緑豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出すること。 ・大塚山いこいの森を市民の自然体験および学習の場として活用すること。
(3) 実施内容	令和7年11月10日に大塚山いこいの森において、青梅市立第四小学校の1・2年生がサクラとシラカシを植樹した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	大塚山いこいの森を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つため、いこいの森を育てる会と管理協定を締結したことによる。
(3) 役割分担	【協働団体側】 ・活動に対する提案や意見の提示、参加者の動員 【青梅市側】 ・企画立案、協働団体への提案、意見交換 ・事業の主催

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 ボランティアと協働で小学校低学年の児童が植樹する作業体験を実施でき、自然体験や学習の場として提供することができた。 【青梅市側】 作業をボランティアと協働で実施することにより、市民の大塚山いこいの森や自然への親しみが生まれること。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 より魅力的で自然と接することができる大塚山いこいの森にしていきたいために、事業を検討して実施する。 【青梅市側】 前例踏襲ではなく、内容や実施時期を検討して事業を実施していく。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	緑地管理ボランティア	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	緑地管理ボランティア		
担当課・係	公園緑地課 わくわく公園係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	公園・緑地内等において、下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となって公園・緑地の利用推進ならびに緑の保全および育成を図るとともに、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ること。
(3) 実施内容	・永山公園緑地管理ボランティア用地等の下草刈り、せん定作業を延べ9回実施した。 ・わかぐさ公園等に花苗を植栽した。 ・大塚山いこいの森ボランティア活動に協力した。 ・行政と意見交換会を実施し、活動の振り返りと今後の活動について話し合った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	公園・緑地内等において、下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となって公園・緑地の利用推進ならびに緑の保全および育成を図るとともに、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ること。
(3) 役割分担	【協働団体側】 ・事業への参加と作業の実施 ・提案、意見交換および評価 【青梅市側】 ・企画立案 ・事業の運営

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 大塚山いこいの森ボランティアの開催を補助することにより、子ども達に公園や自然への親しみを持つきっかけ作りの一助となった。 【青梅市側】 ・ボランティアが公園や緑地への親しみや緑化推進および環境保全への理解を深める機会を提供できた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 公園の除草やせん定および花苗の植栽などを実施し、快適で利用しやすい環境整備を市と共に創っていききたい。 【青梅市側】 ・活動内容や活動日時を検討して、安全安心を第一優先に活動を継続する。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	青梅の森保全プロジェクト（青梅の森保全事業）	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅の森保全プロジェクト協力団体（西多摩自然フォーラム、森林ボランティア森守会、NPO法人青梅林業研究グループ、日本野鳥の会奥多摩支部、青梅さとやま散歩の会、青梅の自然と環境を守る会）		
担当課・係	公園緑地課 みどり推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	青梅の森およびその周辺で市が管理する地域において、保全活動等を行う各種団体等と市が協働で青梅の森保全事業を行い、市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等のレクリエーションの場として活用することを目的とする。
(3) 実施内容	情報共有・意見交換を目的にした会議を令和7年5月、令和8年1月および令和8年3月の計3回開催するとともに、協働により青梅の森内の下草刈り、外来植物除去、間伐、ヨシ抜き、ヨシ刈り作業、野鳥観察、ナラ枯れ対策を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民や関係団体等と連携した青梅の森の管理運営により市民が自然とふれあえる場として活用するとともに、貴重な生物を育む里山環境の整備と保全に資するよう、青梅の森事業計画の中で位置づけられているため
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画・運営 【青梅市側】 事務局・管理・運営

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 杉保プロジェクト会議により各参加団体や行政が有する技術や知見の共有が進んだほか、各参加団体、行政との間で、それぞれの立場を踏まえつつ、緊密な意思疎通、調整を図ることができた。 杉保プロジェクト参加団体の活動および協働事業により、青梅の森の保全・整備が円滑に推進された。
(2) 今後の課題および改善事項など	【青梅市側】 台風等による被害や倒木等の報告、応急的な対応等を迅速に行ってもらうことで、青梅の森での事故発生等を未然に防ぐことができた。 ボランティア団体によるカシノナガキクイムシ捕獲調査をはじめ、青梅の森内の外来植物除去作業にも参加いただき、新たな協働事業を拡大し、生態系の保全の一助となった。
	【協働団体側】 杉保プロジェクト会員は各団体の代表者となっており、杉保プロジェクト出席者が固定化している。円滑な世代交代を図るべく、代表者に加え次世代委員の会員参加を容認あるいは推奨すべきと思料。また、杉保プロジェクトを構成する団体数増加に向けた施策の検討は緊急の課題。青梅の森の利活用推進、杉保プロジェクトの活性化には、活動する団体向けの資機材倉庫拡張、北谷津トイレ設置等、施設面の拡充が有効策。これらの実現に向け各参加団体と行政が力強く連携する必要がある。
	【青梅市側】 青梅の森の保全・整備事業にかかるボランティア団体会員の高齢化が進んでおり、将来的には、事業継続への懸念がある。今後は、新規団体の加入の願いや、若い世代の方が積極的に保全活動ができる環境等について団体と行政とが施策等を協創していく必要がある。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	見守り支援ネットワーク事業協定締結事業者		
担当課・係	高齢者支援課 いきいき高齢者係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただく。市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としている。
(3) 実施内容	市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の見守りが必要とする者と接する機会が多いため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関等と連携し安否確認を実施する。 【青梅市側】 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 現場から報告があがることも複数回あった。現場に対し見守りネットワーク事業について周知できたと感じた。 【青梅市側】 民間事業者等との協力により、行政だけでは困難である緩やかな見守り活動を行っている。直接意見交換をする機会もあるため、事業者側の見守りの視点も伺うことができる。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 現場からの報告内容があやふやなことも多いので、報告する項目をあらかじめ定めておく必要がある。(時刻・住所・表札のお名前・状況など) 【青梅市側】 小さな異変でも報告していただくことで、本事業の緩やかな見守りにつながるため、引続き事業者の方々には協力を依頼していく。

5 事業の様子(写真等)

協働事業評価シート

事業名称	高齢者向けスマートフォン教室・パソコン教室開催事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	パソコンボランティア青梅		
担当課・係	高齢者支援課 いきいき高齢者係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	高齢者のデジタルデバイド解消に向けた取り組みの一環として、ICT機器を活用したコミュニケーションや電子サービスの活用を促進することにより、もって高齢者の市民生活の質を向上させること。
(3) 実施内容	福祉センターで、偶数月にスマートフォン教室、奇数月にパソコン教室をそれぞれ月1回開催。延参加者数は108人。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	令和5年度市民提案協働事業「高齢者のデジタルデバイド解消」によりボランティア団体と協働で実施することとなった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 教室の実施・教育機材の貸出し（パソコン教室のみ）・利用するアプリケーションの選定 【青梅市側】 情報提供・広報周知・参加申込み受付・会場の確保・その他事業の実施に必要な事項

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 広報おうめでの参加者募集において、青梅市高齢者支援課の名前がでることで、安心して応募できるため、多くの方の申し込みがあります。参加者の募集においては、定員を超えた場合、抽選を行い、公平な人選も行っていただいております。集客活動を分担いただくことで、カリキュラムの内容の見直しや改善に専念して教えることができ、質のよい内容を届けることができました。参加された方は、満足されてお帰りになっており、我々もとてもうれしくが活動ができ、協働事業を継続してよかったと思っております。 【青梅市側】 協働で行うことで、市と協働団体の役割分担をすることができ事業が円滑に進んだ。また、参加者からは「よく分かった」等の意見もあり、デジタルデバイド解消につながったと考えられる。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 スマホの機能や性能がアップされており、高度な使い方が容易にできるようになってきております。これにより利用範囲も広がることから、高齢者に向けたカリキュラムの内容の見直しを適宜、実施してゆきます。また、これに合わせて、高齢者への会員のサポーターの教え方のレベルアップを図るため、反省会や、学習会を継続して実施しております。会員募集にも力を入れ、サポートできる会員を増やすことで、より多くの高齢者の方に満足いただける内容やサポートを提供したいと考えております。 【青梅市側】 行政手続きの電子申請方法の講習等、さらなるデジタルデバイド解消につながるように適宜、協働団体と教室内容の見直しを行う。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	認知症キャラバンメイト		
担当課・係	高齢者支援課 包括支援係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	認知症にやさしいまちづくりのため、ボランティアとして講師をしていただける認知症キャラバンメイトと協働し、市民や企業等団体などを対象に認知症サポーター養成講座を開催する。
(3) 実施内容	認知症サポーター養成研修を開催

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	全国認知症キャラバンメイト連絡協議会の事業でもあるため
(3) 役割分担	【協働団体側】 認知症サポーター養成講座の講師を担当 年間22回開催470人受講 【青梅市側】 認知症サポーター養成講座の主催や開催希望団体への講師手配、テキスト等の調整

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	5	5
	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 行政機関、地域包括支援センターが主催することにより、市民の方が参加するにあたり、特に安心感があるように思います。なるべく多くの市民の方に認知症についての正しい知識を学んでいただくにあたり、良い機会になると考えます。 【青梅市側】 幅広い団体に対し、市役所の営業時間によらず、柔軟に講座の実施をすることができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 これからもさらに広い範囲の方へ認知症について知っていただける機会を増やしていきたいと思いますので、一緒に考えていければ幸いです。 【青梅市側】 積極的に講師をしていただける特定のキャラバンメイトに負担が集中している。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク委員会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	弁護士会・民生委員児童委員・警察署・消防署・保健所・社会医福祉協議会・特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・人権擁護委員		
担当課・係	高齢者支援課 包括支援係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	高齢者虐待防止について、件数の報告と事例検討を実施し、今後の対応等について関係機関との連携を図る
(3) 実施内容	令和7年度 第1回 8月7日開催 第2回 令和8年1月23日開催 養護者による高齢者虐待の状況について・養介護施設従事者による虐待の状況について・事例検討・情報交換等

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会設置要綱にもとづき、専門的見地から意見を求めている。
(3) 役割分担	【協働団体側】 提案や意見の提示、意見交換、高齢者虐待防止に向けての取り組みを共有し、検討する 【青梅市側】 委員会の事務局・高齢者虐待の傾向、対策や取組を検討

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	5	5
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 多職種が参加することで各々の知識や経験を共有することができた。 【青梅市側】 高齢者虐待の防止や早期発見、虐待を受けた高齢者や養護者に対する適切な支援を行うために、関係機関や民間団体との連携協力体制構築を目指す中、地域における高齢者虐待対応に理解・協力をいただく場であり、昨年度は、関係機関を増やし協力体制を強化できたことは、大変有意義である。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 なるべく多くの委員が発言できるようになると、尚良い会議になるのではないかと思います。 【青梅市側】 関係機関や民間団体とのさらなる連携強化と、高齢者虐待に関する地域住民への啓発活動、専門職間のネットワークを拡充し、地域全体で高齢者の虐待防止のため実践に取り組んでいく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青梅市手話講習会および手話通訳者養成講座	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市聴覚障害者協会		
担当課・係	障がい者福祉課 サービス給付係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	(1) 一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること (2) 日常会話の技術を習得し、ろうあ運動の歴史および聴覚障害者の活動について学ぶこと (3) 手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進すること (4) 青梅市聴覚障害者等意思疎通支援事業の登録手話通訳者を養成すること
(3) 実施内容	(1)福祉センター集会所にて手話通訳者養成講座を令和7年4月から令和8年2月までの間に年40回開催 (2)福祉センター集会所にて中級手話講習会を令和7年5月から令和8年2月までの間に年35回開催

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者協会の事業として従前より実施されていたが、同団体より協力依頼があったため
(3) 役割分担	【協働団体側】 実施計画の作成および主催 【青梅市側】 会場確保、広報・周知、参加者募集・受付、運営費助成

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 2025年6月25日の手話施策推進法の施行に伴い、より多くの市民に手話を学んでいただき、聴覚障害者への理解を広げることを目的として手話講習会を実施しました。本事業においては、会場の予約手続き等にご協力いただき、円滑に実施することができましたことに感謝申し上げます。また、2025年11月のデフリンピック東京大会において、ボランティアや応援等を体験できたことは大変有意義であったと考えております。なお、上級受講にあたっての面接実施についても、今後継続していきたいと考えております。 【青梅市側】 聴覚障害者団体が主催することで、手話を学びたい一般市民と手話を必要とする聴覚障害当事者が直接交流することができ、事業目的を達成する上で大変効果的である。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 令和7年度において中級講習会及び手話通訳養成講座を実施できたことに、深く感謝申し上げます。一方で、現任手話通訳者の高齢化に伴い減少が危惧されるため手話通訳者の育成が喫緊の課題になっております。今後は、2026年12月の統一試験に向けた勉強会等の実施を図りたく、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。 【青梅市側】 手話通訳者の人材が不足していることから、当事業を通して一般市民の手話技術向上の機会を広げ、手話通訳者の養成につなげることが課題である。初級、中級、上級と途切れなくステップアップした講習会を実施し継続的な地域福祉の増進を図りたい。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	青梅市障がい者交流バスハイク	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市障害者団体連合会		
担当課・係	障がい者福祉課 庶務係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	バスハイクを通して障害者やその家族の交流を図る。
(3) 実施内容	
	大型バス2台を借り上げ、ハーブ庭園旅日記の自由散策および体験型複合施設フモット南アルプスでの自由散策を実施した。 54人の参加（うち、市職員3名）を得た。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	障がい者交流バスハイクの実施にあたっては、見学先の選定および参加の募集について、従前から青梅市障害者団体連合会の協力を得ていたため、協働事業として位置付けた。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	見学先の選定、行程表（案）の作成、しおりの配布、手話通訳者の選任、（団体）参加者の取りまとめ・集金、当日の運営等
【青梅市側】	バスの借上げ、参加者駐車場の手配、広報おうめへの記事掲載、施設の予約・手配、行程表・申込用紙・参加者名簿・バス座席表・しおりの作成、（個人）参加者の受付・集金、当日の運営・精算業務等

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
青梅市障害者団体連合会から、事業実施担当者を選んで青梅市の担当者と、日時及び行く先等について連携して行っている状況であり、協働による効果については、十分になされていた。
【青梅市側】
限られた予算の中で、青梅市障害者団体連合会に見学先の選定および行程案を作成いただいたことにより、適切な行先を決めることができた。 また、当日の運営にも携わっていただいたことにより、事故等もなく円滑に実施することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
現在、各年で障害別に実施して頂いている状況である。なお、課題点については障害別に分けている部分で、聴覚障害者の会と視覚障害者の会が一緒になっている為、実施場所（行き先）等の選定が困難になっている面があり、今後検討が必要と思われる。
【青梅市側】
・自由散策終了時や高速道路SAの休憩終了時に、集合時間になってもバスに集合せず、戻らない参加者を探し回る事態が発生したので、集合時間にバスに戻ってもらえるように、見回りおよび声掛けなど、もっと参加者に時間を意識していただけるような対策を考える必要がある。 ・昼食について、今回は自由散策の中で各自自由にとっていただくこととしたが、現地に到着したのが12時ということもあり、昼食場所の確保に苦慮した参加者がいたようなので、余裕をもって昼食をとれるように到着時間等について考える必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	第53回おうめ健康まつり	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市三師会		
担当課・係	健康課 健康推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	市民の疾病予防、公衆衛生に関する啓発、宣伝、保健衛生知識の普及向上等を図ること。
(3) 実施内容	
	歯磨き指導、地場野菜の即売、各種相談、生活習慣病の予防、ヘルスチェック、体組成測定、梅っこ体操講習会等を実施するとともに、元日本薬剤師会会長の山本信夫氏を講師に招き「医薬分業＝医療の見える化」と題して講演を行った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	市と三師会理事会との協議による。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	イベントブースにおける事業実施および会計
【青梅市側】	イベント全体の運営、準備

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
医療に関する相談コーナーでは、係の方が適切に進行に協力して戴いた。但し、内科は3人必要かどうか？
【青梅市側】
市だけでは為し得ない専門的な保健衛生分野の啓発が可能となった。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
講師の食事の手配が円滑になされず、1人はもち帰り1人は講演後にお渡しした。食事の要・不要を事前に把握し講演後に控室にて食事できるようにしたい。
【青梅市側】
イベントの実施意義、開催方法等について、引き続き効果的なものとなるよう、検討を図ってまいりたい。 また、イベント当日の対応について、必要な改善を図ってまいりたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NPO法人青梅ファミリーサポートはあと		
担当課・係	子育て応援課 子育て推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 実施内容	
	子育ての支援を求める者（利用会員）と子育ての支援をする者（提供会員）による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考えたため。
(3) 役割分担	
	【協働団体側】 事務局としての運営管理および会員間のコーディネート、相互援助活動および有償ボランティア活動としての事業実施
	【青梅市側】 広報活動（広報うめへの掲載、LINEなどのSNS発信）、会場場所の予約

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 提供会員養成講座では青梅市広報やLINEを利用し、受講生の増員が認められた。実施場所の確保や事前準備では協働の役割分担がなされた。提供会員交流会やおたのしみ会では青梅市の代表として参加して頂き、会員の定着意識の向上につながられた。
【青梅市側】 事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。提供・利用会員への対応でも大きなトラブルなどなく事業が遂行された。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 提供会員の高齢化に伴い、退会希望者が増える傾向にある。今後も提供会員の定着、増員に向けて取り組むよう努める。
【青梅市側】 子育て家庭の支援の充実を図るために、利用会員の増加に向けた周知方法について検討したい。 また、提供会員についても、新規会員の加入をすすめ、事業継続に問題が生じないようにしたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	子育て支援講座事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NP0法人青梅こども未来		
担当課・係	子育て応援課 こども施策推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	(1) 乳幼児の知性・感性を育て、人格形成を図ること。 (2) 前号に掲げる事項を保護者が達成できるような技術を会得させること。 (3) 保護者同士が交流を通じて、互いの子育てに関する悩みや情報を共有できる場とするともに、自主的なサークル等の活動に移行できるよう導くこと。
(3) 実施内容	
	(1) 子育て支援に関する講座（親子スキップ教室） 年7教室実施。4教室については10講座実施。3教室については8講座実施。開催時間は1講座につき1時間30分程度とする。 (2) 乳幼児向け体験イベント（あつまれ！親子スキップ教室） 年3回実施。開催時間は土・日・祝日昼間の1時間30分程度とする。 (3) 乳幼児向け体験イベント（あつまれ！0・1・2・3ちびっこ★ランド） 年1回実施。開催時間は土・日・祝日昼間の1時間程度とする。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	既存事業として、効果があったため令和7年度においても委託契約で実施することとした。
(3) 役割分担	
	【協働団体側】 内容企画、提案、教室実施
	【青梅市側】 周知、募集、会場予約

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 ・早い段階で、行政によって会場が確保できたことと、当法人による事業の目的に最適な講師を依頼できたことで、事前準備・周知活動等が念入りになった。 ・市内に広く配布される「広報おうめ」への掲載により、多くの方々に事業の内容等を周知することができた。 ・当法人が受託運営している子育てひろばに遊びに来た親子や、事業に参加中の親子に直接声をかけることができた。 ・令和7年度よりクラス編成や回数等を変えて行ったところ参加親子数も増えより充実した教室が行えた。また、行政によって会場確保ができたことで事前準備等が入念にできた。 ・市内に多く配布される「広報おうめ」や「青梅市メール」「青梅市LINE」により、多くの方々に事業の周知をすることができた。 ・当法人のニュースレターに掲載したり、当法人が受託運営している子育てひろばに遊びに来た親子に直接声をかけたりして周知することができた。 【青梅市側】 こども関連のNP0と委託契約することで、内容の充実した教室が開催できた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 ・今後も対象年齢の親子の希望をできるだけ取り入れながら、講師・会場等の選定を進めていきたい。ただし、対象児の年齢に幅がありすぎるので、皆が安全に楽しむにはどのような内容にすれば良いかを、事前にしっかり相談する必要がある。 ・クラスによっては、参加者数が多くなり定員内ではあったものの部屋がかなり窮屈な状態で活動した日があった（1親子に対して2名以上の参加者があった）ので会場の選択も十分に行えると良いかと思う。 ・イベントの日程について時期、気候等十分な配慮が必要になってくる事が考えられるので、事前にしっかり相談する必要がある。 【青梅市側】 広報や市LINE、青梅市子育てアプリ等で周知を行ってはいるが、周知不足が否めない。 参加者がリピーターが多く、新規が少ない。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	あそぼうよ！青梅 外遊び型子育てひろば はらっぱ	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	特定非営利活動法人かぶかぶ山のようちえん		
担当課・係	子育て応援課 こども施策推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	本事業は、乳幼児期までの子どもと保護者、妊婦とその家族を対象に、「自然が豊かであたたかいつながりのあるふるさと青梅に生まれて良かった」と思えるような、青梅市ならではの自然を生かした子どもの健全育成の場、子育て家庭と地域とのつながりの場を作り、子育て世代を支援すること。また、第7次青梅市総合長期計画の基本理念として掲げる「あそぼうよ！青梅」の趣旨に則し、参加する子育て世代の人々が、あそびを通じて地域とふれあうことで、そこから地域の課題に関心を抱き、まちづくりに加わっていただく流れを創り出していくとともに、移住希望者を生み出すきっかけとなるような事業としていくこと。
(3) 実施内容	わかぐさ公園や旧吉野家住宅を会場に、年25回開催する。 内容は、乳児から幼児の親子の外遊びをサポートし、臨床心理士や助産師などの専門家との対話時間を設け、参加者の相談に対応する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市子ども関連NPO団体連絡協議会からの提案を受け事業を開始した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 内容企画、提案、事業の実施、アンケート調査等 【青梅市側】 会場予約、開催日周知等

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 実施を重ねていく中で、行政との協働のもと地域や子育て層への認知も広がり、公共性・公平性を備えた「場の運営」は着実に成熟してきています。特に今年度は、地域の方にご寄付いただいた絵本を活用した「どうぞの絵本」によるアウトリーチを実施したことで、従来のように広場利用を目的として訪れた親子にとどまらず、公園を訪れた一般来訪者に対しても自然な形で取り組みの周知を行うことが可能となりました。これにより、潜在的な利用者層との接点が広がり、行政と連携した取り組みとしての信頼性のもと、地域の中での認知向上と参加への心理的ハードルの低減につながっていると思われます。このように、協働による試行と改善の積み重ねにより、事業は「待ちの支援」から「地域にひらかれた能動的な支援」へと発展しており、外遊び型子育て支援の有効性と、青梅市内の他地域での展開可能性を示す成果となってきています。 【青梅市側】 NPO法人に委託することで、専門知識豊富なスタッフをそろえることができ、参加者の悩みを解決することができた。また、行政管轄の施設だけでなく、神社等で開催することで、乳幼児にとっていい体験となった。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 アウトリーチの強化により新規層との接点は広がっているものの、継続的な利用や参加者との関係性の深化につなげる導線設計には改善の余地があります。特に、公園来訪者など偶発的な接点から継続利用へ移行する仕組みづくり（再来訪のきっかけづくりや情報提供の工夫等）が必要です。また、複数年度実施を続けていく中で、運営体制の持続可能性の確保が重要な課題です。現状はスタッフの経験値や関係性に依存する部分も多く、運営ノウハウの可視化・標準化、人材育成の仕組みづくりが必要です。26年度は、公園内での自然体験を地図におこしたおさんぽマップ等、蓄積されてきたナレッジの可視化に取り組みます。 【青梅市側】 より多くの市民に知れ渡るように周知を徹底すること。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青梅子どもふれあいフェスタ2025	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市子ども関連NPO団体連絡協議会		
担当課・係	子育て応援課 こども施策推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	子育て支援・児童の健全育成・多世代交流
(3) 実施内容	
	令和8年1月25日（日）、青梅市福祉センターを全館貸し切り実施。内容は、①「おみせやさん」として、こどもたちの出店を中心に、様々な遊びを体験できる場を提供。②「ステージ」では、舞台での各種催し物を行う。③「赤ちゃんコーナー」では、授乳やオムツ交換できる場を設け、休憩の場を提供。④「模擬店コーナー」では、飲食コーナーを提供。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	青梅市子ども関連団体連絡協議会からの提案。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	フェスタの内容企画、提案、会場設営、当日運営
【青梅市側】	会場予約、実行員会参加、備品準備

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	3	5
実施段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	5
事業終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	3	5
	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
より多くの人たちが来場し、信頼度も高く、みんなが安心して参加してくれていた。チラシの配布などもスムーズにできた。開催場所の使用方法など協働だからこそ出来ることも幅広くなり、来場者の満足度が高くなった。
【青梅市側】
6つのNPO団体からなる「青梅市子ども関連NPO団体連絡協議会」と協働を行うことで、各団体の得意分野を生かしたイベントが開催できた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
開催場所が限られてしまうのと開催時期が、ちょうどいい時期にできないのが今後の課題。限られた人数で行うため開催規模やボランティアのあり方なども改善しなければならない。
【青梅市側】
次回開催場所や開催時期、開催方法が未定であり、開催できるかが不明であること。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	親子の絆づくりプログラム B P 講座	実施年度	令和 7 年度
協働団体の名称	N P O 法人青梅こども未来		
担当課・係	子育て応援課 子育て推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子育ての不安や負担感を軽減し、子育て家庭の孤立化を防止するため、子育て家庭への支援や地域で子育てを支える環境づくりを図ることを目的とする。
(3) 実施内容	B P 1「赤ちゃんがきた！」：初めての赤ちゃんを育てている母親と赤ちゃんを対象に、子育て支援センター「はぐはぐ」や福祉センターにて、1クール4回の講座を年3回実施した。 B P 2「きょうだいが生まれた！」：2人目以降の赤ちゃんを育てている母親と赤ちゃんを対象に、子育て支援センター「はぐはぐ」や福祉センターにて、1クール5回の講座を年3回実施した。 B P 3「幼児とともに！」：1歳～就学前のこどもを育てている母親を対象に、青梅幼稚園子育て支援室にて、1クール5回の講座を年2回実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	B P 講座は、B P ファシリテーター養成講座を受講した認定のB P ファシリテーターが実施する講座のため、B P ファシリテーターのいる団体と協働で実施している。団体からの提案により開始。
(3) 役割分担	【協働団体側】 講師派遣、受付スタッフ要員、当日の会場準備、広報活動（チラシ・ポスターの作成等） 【青梅市側】 広報活動（広報おうめへの掲載、子育てアプリやL I N E などのSNS発信、市内関係各所へのポスター掲示やチラシ配布の依頼）、会場場所の予約、事前申込の受付

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 ・青梅市広報やSNS等で広く市民に告知することが出来た。 ・健康センターと連携をとり、3,4カ月検診に出向くなどして対象者により効果的な働きかけが出来た。 【青梅市側】 本事業の実績のある団体と協働で実施することで、質の高い講座を提供でき、参加者にとって有意義である。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 ・対象者の全員が参加につながるよう、行政の各部署の枠を越えて、「母子手帳配布の際に働きかける、こんにちは赤ちゃん事業の際に働きかける、3,4カ月検診の際保健師から直接対象者に声掛けしてもらう、対象者が利用する市役所や市民センターなど市内各所の窓口や目立つ場所にカラーのチラシを掲示してもらう」など、更に踏み込んで対象者に繰り返し声掛けするシステムの構築が必要だと感じる。 【青梅市側】 広報やSNS発信等、広く周知したが、まだ定員に余裕があるため、さらなる周知方法について検討が必要。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	青梅市親子ふれあい事業ボッチャ大会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市青少年健全育成地区委員長連絡協議会		
担当課・係	子育て応援課 児童・青少年係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、大会に親子等グループで参加することで、ふれあい、異年齢交流や地域交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 実施内容	令和8年2月1日（日）に住友金属鉱山アリーナ青梅にて開催。 市内在住の小中学生・保護者、市内在住・在勤在学の一般市民および大会役員等、64チームが参加。来賓、応援者を含め約400人参加。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成9年頃から青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回大会」が開催された。
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。大会前日準備や当日の運営をすること。 【青梅市側】 事務局として大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会の準備を行うとともに、大会に必要な物品を調達すること。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市の広報媒体を活用したチーム募集や開催情報の公表、実行委員会や説明会の開催、当日の大会運営等が円滑に行われている。大会参加者へのアンケート結果は概ね好評であった。 【青梅市側】 大会前に各地区でボッチャの体験会や試合が行われ、青少年の地域交流と大会に対する関心を高めることができた。また、前日準備として会場設営や当日の選手・参加者の整理誘導、試合進行等について役員や実行委員と協力し、円滑に大会運営を行うことができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 参加を希望するチームすべて受け入れたいところではあるが、スタッフの確保や会場のキャパシティの関係で、難しいのが現状である。当日の運営方法の見直しも検討し、できるだけ多くのチームを受入れ、充実した大会にしたい。 【青梅市側】 参加者と大会役員の双方に無理のない形で運営方法を見直し、青少年世代が参加しやすい大会にしたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア		
担当課・係	シティプロモーション課 観光係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	来園者へのサービス向上を図る
(3) 実施内容	
	吹上花しょうぶまつりでの来園者へのガイド

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	来園者へのサービス向上を図る
(3) 役割分担	
【協働団体側】	ガイドの実施
【青梅市側】	講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 活動期間だけでなく1年を通じてボランティア先に関する関心が高まり、ガイドに役立つ知識や情報がないかと意識して暮らすようになった。オフ期間に公園を訪れ、現場作業の方や散策中の地元の方、またハイカーの方々と話をするとの視点が広がり思わぬ知識を貰うことがあり活動期間中にガイドの先輩や仲間とのコミュニケーションが広がったように感じる。 【青梅市側】 ガイドボランティアとの協働により、来場者へのきめ細かな案内や地域資源の魅力発信を充実させるとともに、市民参加による地域の活性化につながり、来場者満足度の向上と効果的な運営ができたと考える。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 移住して間もなくボランティアに参加した為、地域の歴史にも地理や自然環境など知識が殆ど無いまま活動を始めたので花の基礎知識以前に青梅市民としての「基礎知識」もなく心細いままのスタートだったが、花の研修とともに毎回地理や地域の歴史や山野草や野鳥など、テーマを決めて専門家やベテランガイドの話を聴けるのが素晴らしいと感じている。 実際にガイドの場ではありとあらゆる質問に連発しすぐに回答できない事も少なくないが、確認して自分なりに引出しが増えるように、仲間にも共有したいと思う。 たまたま吹上と吉野で活動している中で2箇所の勉強会に参加できているが、これらの情報は青梅市内でボランティアをする上で役立つと思うのでハナショウブとか梅とかに限らず、全てのボランティア登録者が過去の研修資料を誰でも参照できるようにホームページ上にアップされたらと思う。 庭先行き寄るところですが、シティプロモーションと公園課と観光課と簡単に事は決まらないのは承知の上で、毎年来場者からも指摘されるタチアオイの斜面の件、タチアオイだけ種を撒いたり雑草取りをして少しずつ株数を回復させるボランティアができるなら手を上げる人が自分以外にもいるのでお伝えします。少しずつでも前進を続けていればと考えます。 【青梅市側】 ガイドボランティアとの協働は、来場者サービスの向上や地域の魅力発信に寄与している一方、担い手の確保や情報共有体制の更なる強化などが課題となっている。今後においても、研修の充実や活動の周知、次世代の担い手育成を進め、持続可能な協働体制の構築を図る必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	梅の公園ガイドボランティア事業	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	梅の公園ガイドボランティア		
担当課・係	シティプロモーション課 観光係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	来園者へのサービス向上
(3) 実施内容	
	公園内の梅その他の植物、施設等の案内および説明

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	梅の公園来場者へのサービス向上
(3) 役割分担	
【協働団体側】	ガイドの実施
【青梅市側】	講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 活動期間だけでなく1年を通じてボランティア先に関する関心が高まり、ガイドに役立つ知識や情報がないかと意識して暮らすようになった。オフ期間に公園を訪れ、現場作業の方や散策中の地元の方、またハイカーの方々と話をするとの視点が広がり思わぬ知識を貰うことがあり活動期間中にガイドの先輩や仲間とのコミュニケーションが広がったように感じる。 【青梅市側】 梅の公園ガイドボランティアとの協働により、梅の公園の歴史や自然資源の魅力効果を効果的に発信し、来園者満足度の向上や地域への愛着醸成、市民参加による公園づくりの推進が図られるとともに、きめ細かな案内サービスの提供による公園の価値向上につながっている。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 移住して間もなくボランティアに参加した為、地域の歴史にも地理や自然環境など知識が殆ど無いまま活動を始めたので花の基礎知識以前に青梅市民としての「基礎知識」もなく心細いままのスタートだったが、花の研修とともに毎回地理や地域の歴史や山野草や野鳥など、テーマを決めて専門家やベテランガイドの話を聴けるのが素晴らしいと感じている。 実際にガイドの場ではありとあらゆる質問に遭遇しすぐに回答できない事も少なくないが、確認して自分なりに引出しが増えるように、仲間にも共有したいと思う。 たまたま吹上と吉野で活動しているので2箇所の勉強会に参加できているが、これらの情報は青梅市内でボランティアをする上で役立つと思うのでハナショウブとか梅とかに限らず、全てのボランティア登録者が過去の研修資料を誰でも参照できるようにホームページ上にアップされたらと思う。 梅の研修で毎年同じ資料で同じ講義内容なのを少し不満に思っていたが、よく考えたところ、「初心者研修」であり毎年新人ガイドを想定されているということと自分の考えが誤りだと気づいた。 大ベテランの先輩ガイドの方々は毎回参加されているが、少しだけ自主学習的な事ができないかと思う。具体的には今は浮かばないが吉野のボランティアで話しあえたら何か出るのではないかとと思う。 【青梅市側】 梅の公園ガイドボランティアとの協働は、公園の魅力発信や来園者サービスの向上に寄与している一方、担い手の確保・育成やガイド品質の平準化、情報共有体制の充実が課題となっている。今後は、研修の充実などを通じて、持続可能な協働体制の構築を図る必要がある。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	森林環境教育指導者養成講座	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NP0法人青梅こども未来		
担当課・係	農林水産課 林務水産係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	新規事業（今回の実施が初めての事業）
(2) 事業の目的	森林環境教育を行う指導者として、必要な知識と技術を参加者に習得してもらうことを目的とする。
(3) 実施内容	年10回講座を開催。風の子太陽の子広場で座学による講座を実施。また、「プロジェクト・ワイルドエデュケーター」の資格取得。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市における市民活動団体等との協働事業に関する指針」にもとづき、共同開催している
(3) 役割分担	【協働団体側】 開催場所の選定、講座内容の計画、専門的な知識や技術習得の指導 【青梅市側】 講座開催の事務局、参加者の意見集約、今後の取り組みの検討

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 当団体にとって初めての事業であったため、担当課からの情報提供および丁寧なサポートは大変心強いものでした。特に、講座会場である風の子太陽の子広場管理棟の予約調整について、公園緑地課に万全の準備を整えていただいたことで、講座を円滑に実施することができました。また、立川市との調整もスムーズに進めていただき、両市との連携を通じて、今後の活動へとつながる関係構築ができたことは大きな成果でした。 【青梅市側】 事前に年間計画等をたて、安全対策を行ったうえで講座を開催することが出来た。森林環境に関する専門的な知識と技術を有する指導者を講師に招き、充実した講座内容となった。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 講座の性質上、参加者とのデータ共有やグループワーク調整のための連絡が必要となりました。青梅市の参加者については当団体で連絡先を把握していたため問題ありませんでした。立川市の参加者については、立川市の個人情報の取り扱いの関係上、連絡先を把握できていなかったため、個別の資料送付やグループワーク時の連絡に時間を要する場面がありました。今後は、立川市に参加者については、立川市と協議し連絡手段について検討し、改善策を提案できればと考えています。 【青梅市側】 令和7年度からの新規事業のため、講座修了者が森の担い手として活動しやすい環境の醸成が必要であり、活動意欲のある人々の支援体制の構築が必要である。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	青梅市住宅なんでも相談会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会（※民間の不動産事業者や建築士等の教会で構成される任意団体）		
担当課・係	住宅課 住宅政策係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのため、空き家の相続・相談、住宅の新築・増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 実施内容	青梅市役所にて10月に相談会の実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 相談会当日の相談員 【青梅市側】 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 専門性が発揮出来て良かったと思います。
	【青梅市側】 住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解決することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 特になし
	【青梅市側】 さらに相談者を増やすための効果的な周知方法を検討する。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	青梅市定例住宅相談会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会（※民間事業者や建築士等の協会で構成される任意団体）		
担当課・係	住宅課 住宅政策係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのため、空き家の相続・相談、住宅の新築・増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 実施内容	青梅市役所にて10月を除く原則毎月第3木曜日に実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 相談会当日の相談員 【青梅市側】 市民への周知、広報活動、会場の確保・運営、申込受付、相談会当日の受付・結果のとりまとめ

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	3	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 特になし
	【青梅市側】 住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解決することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 特になし
	【青梅市側】 さらに参加者を増やすための効果的な周知方法を検討する

5 事業の様子（写真等）

事業名称	学校教育ボランティア	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	学校教育ボランティア		
担当課・係	指導室 指導係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(3) 役割分担	【協働団体側】 学校の依頼にもとづく支援 【青梅市側】 学校への活用奨励

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	4	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 学校図書館における整備を教育ボランティアとの協働で行ったことで、常に子供たちの読書環境を整えることができた。それにより、子供たちが自由に読書できる環境を提供することができ、読書習慣を育むことが可能となった。また、教育ボランティアの支援によって選書した図書から得た情報や資料は、学習活動において子供たちに多様な視点を与え、学びの質を向上させることができた。さらには、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実及び活性化を図ることができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【青梅市側】 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。（登録 196人） 地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。教員だけでは補うことができない点に支援を受けることで、教員の負担軽減に繋がっている。
	【協働団体側】 教育ボランティアについては、年度当初にプリントや学校だより募集を行っている。しかし、共働きの家庭の増加などの社会環境の変化による影響か、新規の応募者が集まらずメンバーが固定化されている現状にある。そのため、例年実施している事業の継続（ルーティンワーク）にとどまり、新規事業に着手することができないことが課題である。マッチングシステム活用による新規応募者の募集といった、地域人材の増員を進めるための対策を講じる必要がある。
	【青梅市側】 人材の十分な確保、広報活動。 ボランティア人材の発掘。 学校によって活用実績・活用人数に差がある。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2025～	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青 梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア		
担当課・係	社会教育課 生涯学習推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 実施内容	
	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、お話し会、体験イベント、市内の団体・企業による飲食物販売。 来場者・参加者 のべ3,924人

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会等で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	青梅市生涯学習推進市民会議に事務局として。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	企画運営
【青梅市側】	事務局

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
釜の淵公園とS&Dたまぐーセンターの2会場を使用して盛大に開催することができた。 出演者だけでなく運営に携わった者も準備・片付け・開催中の各係を担当し皆で盛り上げ楽しむことができた。
【青梅市側】
各団体の実行委員には2回の実行委員会へ参加してもらい主体的な運営参加を促し、新緑祭全体の準備や片付け、開催中の係にも協力してもらい、協働を推進することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
来年度も実行委員会の運営がさらに市民が主体的に実行できるようにしていきたい。
【青梅市側】
60 / 60000 来年度も引き続き実行委員会の運営やイベント当日運営についてもさらに市民が主体的に実行できるように改善点を具体的に示しながらサポートしていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	パパママカレッジ～家庭教育講演会～	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	NPO法人青梅こども未来		
担当課・係	社会教育課 生涯学習推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	家庭教育の充実を図る。
(3) 実施内容	
	①親子で考える、いじめとネットトラブル防止の第一歩（市役所会議室、オンラインライブ配信） ②「片付けなさい！」のバトルが今日でストップ！親子のコミュニケーションを高めるお片づけ（市役所会議室、オンラインライブ配信） ③『子育ては“期間限定”笑っているパパになるう』～パパができること、したいことを楽しく考える～（オンラインライブ配信）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	子育て現場の声を反映した講演会とするため。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	講師選定、企画、広報、託児、当日運営
【青梅市側】	講師選定、企画、広報、申請受付、当日運営

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 ・情報過多の中、協働により、参加者や講演者も講演を選ぶ指針となった。 ・青梅こども未来の各種事業の利用者・参加者にチラシを配布したり直接お知らせしたりすることができた。 ・子育て中の保護者の要望(青梅こども未来の子育て中のスタッフの意見を取り入れるなど)に応えるテーマを取り上げることが出来た。 ・協働によりオンラインでの配信等もより多くの人に届けられた。 【青梅市側】 青梅こども未来のスタッフや利用者の子育てに関するリアルな声を反映させ、ニーズに答えられるような講演会を開催することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 ・今後も現役子育て世代が「聞きたい・参加したい」と思えるテーマの設定、それに基づいた企画をして、より多くの子育て中の保護者に興味を持って参加していただく。 ・参加した方々からは好評をいただき、内容は大変良いものだったが、参加者の少なさに残念さが残った。より多くの人に周知する仕組み作りが今後の課題である。 ・来年度も引き続き青梅こども未来のホームページ・ブログ・SNS・LINE等のWEB媒体や、各種事業の利用者、参加者へのチラシ配布やお知らせは継続していきたい。 【青梅市側】 講演内容を多くの人に届けるため、オンライン配信と会場での対面開催だけでなく、アーカイブ配信等も含め参加しやすい形態や講師の選定をしていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）



事業名称	この指とまれ！朗読会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	リーダーズあおうめ		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 【青梅市側】 企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。 【青梅市側】 朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 朗読を発表した参加者や行政と、事業実施後に課題や改善点についてもう少し話し合う機会、反省会を設けたい。 【青梅市側】 この活動は図書館の設置目的の推進に有用であるため、市民と行政が連携することによって、より参加者が楽しく参加できるイベントへと発展させていく。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	中央図書館整架ボランティア	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	図書館整架ボランティア		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図る。
(3) 実施内容	
	整架ボランティアにより、中央図書館の書架の整理を行っている。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供
(3) 役割分担	
【協働団体側】	図書の整架・清掃
【青梅市側】	ボランティアに対する社会的活動の場の提供

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	4	4
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】
ボランティア活動により社会貢献や自身の興味・技術を増進することができた。 新しい方がボランティア登録したことにより、昨年よりも多く貢献できた。
【青梅市側】
ボランティア活動により書架が整理整頓され、利用しやすい環境を作ることができた。また、図書館スタッフの整架作業が軽減したので、他の利用者サービスを多く提供することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】
図書館側と意見交換を行うことにより、問題点や課題が明確になった。 分館での活動も積極的に参加していきたい。 ボランティアの人数が安定しないので、継続的に新規登録者を募ってもらいたい。
【青梅市側】
ボランティア登録人数が毎年10人で推移している。人数を増やすために引き続き養成講座を実施していく。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	おはなしボランティア	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅おはなしの会		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	おはなし会（中央、今井、梅郷、新町、青梅図書館）、絵本の森、大人向けおはなし会、新緑祭おはなし会、出張おはなし会（小学校）、絵本のべんきょう会、おはなしにちようピーナッツ、初級おはなし学習会の開催

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供
(3) 役割分担	【協働団体側】 おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会への参加、実演 【青梅市側】 おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会の開催

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	5	5
	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	【協働団体側】 イベントの事前準備をスムーズに行えたこと 【青梅市側】 図書館スタッフのスキルアップ
(2) 今後の課題および改善事項など	【協働団体側】 会場設営を図書館スタッフに協力してほしい 【青梅市側】 ボランティアの人数が多いため、情報の周知の工夫が必要

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	「本好きたちの読書会」～同じ本を読んでみんなで語り合いましょう～	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	ペンギンの会		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	読書会を開催することで、読書に対する興味関心を持ってもらい、図書館の利用促進を目指す。また、市民団体と協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図る。
(3) 実施内容	「ペンギンの会」と中央図書館が共催で読書会を開催。課題本を読んだ感想を、参加者が自由に話し合い、読書に関する話題を交換した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	中央図書館におけるティーンズサービスの充実に取組む中で、図書館ボランティア「ペンギンの会」から中学生以上を対象とした読書会を提案された。
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画立案、広報、読書会の開催運営への参加、実演 【青梅市側】 広報、応募者の取りまとめ、会場提供、読書会の開催支援

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 フリースペースの設営により、読書会開催を若い人に印象づけることができた。読書会を盛り上げるために図書館スタッフが尽力してくれたおかげで、読みが深まった。読書会で講演会講師の作品を取り上げることができた。課題本を図書館ホームページで紹介してもらえてありがたかった。常連さんができてきたことは活動している者としてはうれしい。
【青梅市側】 リピーターの参加者がいることから、市民に開かれた図書館、という目的は達成されている。また、課題本の貸出状況や見学を希望する参加者もいることから、利用者の読書に対する興味関心を促していると考えられる。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 若い人の参加が少なく、周知などの活動が必要かと思われる。課題本の選定がなかなか難しく、ペンギンの会メンバーは苦心している。メンバー会員の減少もあり、負担が増えてきて、会員募集などが必要かとも思われる。高校生など若い人の仲間が欲しいと考えている。毎月集まることが負担になってきているので、削減などの方法を考える必要がある。
【青梅市側】 中高生の参加人数の増加が課題。フリースペースでの開催で読書会の周知は図れているが、来場者数は日程に左右されているのが現状。また、課題本の選定は団体が行っているが、10代が興味のある本の情報共有の必要性も感じる。この2年間は手探りの部分もあったと思うが、これまでの気付きを両者で話し合い、更に改善していく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青 梅市吉川英治記念館 秋のライトアップと夜間開館	実施年度	令和 7 年度
協働団体の名称	NP0法人青梅吉野梅郷梅の里未来プロジェクト		
担当課・係	文化課 吉川英治記念館担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。
(3) 実施内容	
	開催期間：令和7年11月8日から11月24日まで吉川英治記念館の開館時間は、午前10時から午後5時までのところ、主屋と庭園をライトアップし午後8時まで夜間開館を実施した。【期間中来館者】 666名（うち夜間開館来館者122名）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	行政からの提案
(3) 役割分担	
	【協働団体側】 ライトアップ会場設営などのコーディネート
	【青梅市側】 ライトアップ会場の提供、周知、運営全般

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 秋の紅葉シーズンに、夕刻から館内庭園のライトアップをおこない、普段ではみられない、特別な空間を演出した。来館者増加として、期間中ジャズコンサート事業も協働し、来館者の増加へつながった。また、『SNSフォトコンテスト秋2025』を同時開催し、来館者からの情報発信へとつながれた。
【青梅市側】 吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方に訪れてもらうことができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 御岳渓谷のライトアップは今年も開催されず、周辺のお店なども閉まる時間帯のため、周辺観光の連動やPRとしては弱い結果となった。来年度にむけて、連携先などを含めて周辺施設や団体などにお声がけしながら、集客率の高い事業としたい。
【青梅市側】 多くの方に吉川英治記念館を知ってもらうための取組として今後も継続していきたい。さらに多くの方に吉川英治記念館を訪れてもらうための情報発信など

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	地域連携展示『五月人形展』	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	市民、武州青梅三田弾正手作り甲冑隊		
担当課・係	文化課 吉川英治記念館担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。
(3) 実施内容	
	開催期間：令和7年4月26日から5月18日まで展示総点数18点（内12点寄贈）・兜飾、鎧飾、祝太刀、破魔矢飾、甲冑など【期間中来館者】 538名

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	吉川英治記念館を知ってもらう機会を創出するため。
(3) 役割分担	
【協働団体側】	五月人形等の展示協力
【青梅市側】	五月人形等の展示協力、周知、運営全般

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 今年で6回目となる本事業は、市民の方から寄贈された五月人形などを主屋にて展示をおこない、端午の節句らしい展示企画を展開した。武州青梅三田弾正手作り甲冑隊様からお借りした甲冑で迫力のある展示空間となった。展示内容の特性上、年に一度ではあるが、配置場所や展示方法を毎回試行錯誤し、ご来館のお客様からは好評をいただいた。 【青梅市側】 吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうことができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 課題としては収蔵品を年に一度設置するため、繰り返される内容となってしまう部分がある。こども対象にワークショップ、来館者増加を狙った、甲冑や刀などの特別展示の開催などを検討したい。 【青梅市側】 展示スペースに限りがあるため多くの方から提供の申し出あったときの対応や、さらに多くの方に吉川英治記念館を訪れてもらうための情報発信など。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	地域連携事業『青梅市吉川英治記念館 青梅夜具地展』	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市民、ギャラリーカフェはこ哉		
担当課・係	文化課 吉川英治記念館担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	新規事業（今回の実施が初めての事業）
(2) 事業の目的	
	令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。
(3) 実施内容	
	開催期間：令和7年11月7日から11月24日まで展示総点数51点（すべて、ギャラリーカフェはこ哉より借用） 青梅夜具地 【期間中來館者】 708名

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	行政からの提案
(3) 役割分担	
	【協働団体側】 青梅夜具地等の展示協力
	【青梅市側】 青梅夜具地等の展示、周知、運営全般

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

協働事業評価シート

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 秋のライトアップ期間と合わせて、青梅夜具地の資料をお借りし、主屋に展示をおこないました。展示場所や展示方法なども毎年工夫していただき、「これだけの数と種類の青梅夜具地を見ることができて、とてもおもしろかったです」とお客さまからも好評をいただきました。また、青梅夜具地を使ったグッズの販売もあわせて実施しました。 【青梅市側】 吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうことができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 今回、お客さまからは「織機なども一緒に見ることができたら、面白そう」などといったご意見をいただきましたので、写真パネルなどで紹介できるかを検討していきます。 【青梅市側】 展示スペースに限りがあるため多くの方から提供の申し出あったときの対応や、さらに多くの方に吉川英治記念館を訪れてもらうための情報発信など。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	地域連携展示『ひな人形展』	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	市民		
担当課・係	文化課 吉川英治記念館担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。
(3) 実施内容	
	開催期間：令和8年2月14日から3月20日まで出品者7組・展示総点数12点（内10点寄贈）・七段飾り、親王飾りなど【期間中来館者】 1,051名 Q10.

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	行政からの提案
(3) 役割分担	
【協働団体側】	ひな人形等展示協力
【青梅市側】	ひな人形等展示、周知、運営全般

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 今年で6回目となる本事業は、市民の方から寄贈されたひな人形などを主屋にて展示をおこない、桃の節句らしい展示企画を展開した。美しい展示空間となった。展示内容の特性上、年に一度ではあるが、配置場所や展示方法を毎回試行錯誤し、ご来館のお客様からは好評をいただいた。 【青梅市側】 吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうことができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 今年度も、同時開催している、梅まつりとの連携を含めて、来館者増加を狙いたい。また、紅梅饅頭の提供も実施していき、満足度の高い事業を開催したい。 【青梅市側】 展示スペースに限りがあるため、多くの方から提供の申し出あったときの対応。さらに多くの方に吉川英治記念館を訪れてもらうための情報発信など。

5 事業の様子（写真等）

事業名称	第58回青梅マラソン大会	実施年度	令和7年度
協働団体の名称	青梅市陸上競技協会		
担当課・係	スポーツ推進課 スポーツ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	
	①市民のスポーツ実施率向上 ②参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ③全国からの参加者同士の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 実施内容	
	○30キロの部 ○10キロの部 ○ジュニアロードレース

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	
	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(3) 役割分担	
	【協働団体側】 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、関係機関との連絡調整、医務救護、通信連絡体制、参加申し込みの受付等
	【青梅市側】 道路の占有許可手続きおよび官公庁との連絡調整、コース・会場設営・施設（更衣室・トイレ等）の整備確保、住民の協力要請を周辺対策等

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業実施は円滑になされた	2	4
	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	2	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 支会自治会、企業に加えて一般市民などの幅広いボランティアと競技役員とで役割分担を明確にした上で、密接な関係を取りながら協業を行った結果、安全で安心な大会を運営することができた。
【青梅市側】 「家族割引」の割引額を増やす取り組みを行い、青梅市民の場合はジュニアロードレースの参加費が無料になったことで申し込み数が増え、小学生の部は定員に達し、中学生の部も昨年度比で参加者数が増えた。また、給水所を1カ所増設し、市内協賛企業に給水ボランティアとして協力いただいたことにより地域のコミュニティを強化できた上、ランナーのためになる改善をすることができた。駅周辺の混雑対策は継続して実施したことにより、安全な大会を運営することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 一般社会における生活様式が年々変化しており、これをもとにした参加者の目的や意識も変化してきており、これらに対応する競技運営が求められている。今後、協働事業を実施する中で改善する必要があると思われる。
【青梅市側】 ○参加者の確保 全国の市民マラソンの参加者が減少傾向にあるなかで、持続可能な市民マラソン大会を開催するためにどのようにして参加者を確保していくか、SNS等を用いた効果的なPR方法などが課題となっている。また、将来の参加者確保のためにジュニア世代を継続して確保していく必要がある。 ○ボランティア人材の確保 市職員・地元協力企業のボランティア人数が減少傾向となっており、安全な大会運営のためにも役割などを見直し、最適な人員配置を検討する必要がある。

5 事業の様子（写真等）

事業名 「青梅ガイドー デジタルデータ&マップ」



- 1 実施団体 特定非営利活動法人青梅まちづくりネットワーク
- 2 担当課 市民活動推進課（青梅市民センター）
- 3 実施時期 令和7年8月1日～令和8年3月31日
- 4 参加者
村野公一、大倉十彌也（以上、青梅まちづくりネットワーク）
宮崎廷（写真家）
英晃史郎（市民活動推進課・青梅市民センター）
- 5 実施場所 青梅市内
- 6 事業の目的
市内外の多くの方々に青梅の魅力をを知っていただけるようにするため、青梅市内（主に青梅市自治会第1支会とその周辺エリア）における歴史・文化等の情報を収集し、後日の各種利用が容易になるデジタル原稿（テキスト、写真など）の形でまとめる。また、その情報をネット上のデジタルマップに落とし込み、ビジュアル化する。

7 役割分担

- ・団体の役割 情報の収集とデジタル原稿化等
- ・担当課の役割 情報収集への協力、事業発表会の会場提供等

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

今回まとめられた情報は、青梅市自治会第1支会とその周辺エリアに関するものに限られるとは言え、これまでほとんど手が付けられていなかった、地域の魅力あふれる歴史・文化情報等をデジタルデータ化したことで、今後、観光や教育をはじめとするさまざまな分野において活用し、地域活性化に資するモデルが作りやすくなったと考える。

9 目標達成

- ・事業の目標：本事業の当初の目標は、青梅市自治会第1支会とその周辺エリアに関する基本的な歴史・文化情報をデジタル化することでした。が、本事業がその本質として掲げる目標へのアプローチは、これからのことになります。本事業において作成された地域の基礎情報を今後、観光や教育をはじめとするさまざまな分野で活用していただくこと、さらには、青梅市自治会第1支会エリアに続き、その他の各支会エリアにおいても同様に、情報がデジタル化されていくことを期待します。
- ・目標の達成具合：当初の目標はおおよそ達成されたと考えますが、まだ追加、あるいは、補筆・修正等を加えていくべき情報も多々あります。今後も、少なくとも2026年度内は情報の改訂を行っていく予定です。

10 事業の実施内容

青梅市自治会第1支会とその周辺エリアに関する基本的な歴史・文化情報をデジタル化し、ネット上のデジタルマップに落とし込みました。また、本事業について認知していただくため、2026年5月に発表の場を設けることも予定しています。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
(4) 協働相手は適切だった	3	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
(8) 設定した目標が達成された	3	3
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	2	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

担当課に対する評価としては、できる範囲でのご協力をいただいたと考えております。ただし、担当課を通じて、青梅の歴史・文化情報の集積機関とも言える郷土博物館に対し、指定文化財等に関する情報提供を依頼したところ、「そうした情報はない」といった理由であっさり協力を断られてしまいました。郷土博物館にはその他にも、さまざまな情報提供をお願いしたかったところが、スタート地点とも言える段階から協力を得られない状況になってしまったのは、非常に残念なことでした。

・担当課側

実施団体との役割分担に基づき関係課に情報提供を依頼したが、団体が必要とする情報を保有しておらず、協力することができなかった。そのような状況にも関わらず、事業を実施することができたのは団体の力が大きく、協働相手として適切であったといえる。ただし、行政側としては協力体制が不十分であったことは課題が残るものと判断している。

また、事業実施により市が保有していない情報を補完できたという点においても協働事業は効果のあるものであったと考える。

13 その他

本事業においては、第1支会地区を中心としたデータおよびマップの作成であったが、今後、他支会地区においても市民と行政の適切な協力体制のもと作成されることに期待したい。

事業名 災害時ペット同行避難における対応について
～ 避難者も受け入れ側も共に快適空間を創るには～



- 1 実施団体 青梅市獣医師会
- 2 担当課 環境部環境政策課
- 3 実施時期 令和7年4月から令和8年2月まで
令和8年2月1日（講演会開催日）
- 4 参加者 100名（講演会参加者）「講師・関係者含め109名」
- 5 実施場所 青梅市役所2階 204・205・206会議室
- 6 事業の目的

動物の愛護及び管理に関する法律（以下「動愛法」という。）の基本原則にもとづき、災害時等における「人と動物の共生に配慮する」ことの理解促進を図る。

青梅市が作成する「ペットとの同行避難マニュアル」の推進に寄与することにより、災害時避難所でのペットとの同行避難に関する適正な対応方法の周知を広めていくことで、避難者、受け入れ側の知見を深めトラ

ブルの未然防止に努める。

- 7 役割分担
 - ・団体の役割
事業の立案、ポスター・チラシ等の作成、事業準備・運営
 - ・担当課の役割
会場の確保、広報活動、事業準備・運営
- 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

市が作成する「ペットとの同行避難マニュアル」の周知を図ることが出来たとともに、避難所開設関係者とペット同行避難者との共通認識による避難所運営等の連携の必要性、スライド写真による実際の避難所生活の困難さを知り、人と動物との調和のとれた共生社会の実現を実装する機運向上に繋がった。
- 9 目標達成

事業の目標：災害時におけるペットとの同行避難を例に、様々なペットの生態の正しい理解を学ぶ。また、災害時の動物避難への理解習得。人と動物および自然環境などからの「共通感染症」をなくすための周知、講義をとおして「人と動物の共生社会」の実現を目指す。

目標の達成具合：被災地に赴き、ペットと同行避難された被災者に寄り添った経験を講演していただいたことで、参加者は、災害時の動物避難への理解を深めることができたと考える。また、人と動物の「共通感染症」に関する理解や、「人と動物の共生社会」の実現の大切さについても周知することができた。
- 10 事業の実施内容

令和7年10月の総合防災訓練から講演会開催の周知を始め、12月の自治会回覧でもチラシを周知できたことで、100名の参加者に聴いていただく事が出来た。平井講師の作成したパワーポイントには被災地での同行避難者の実情等も写されており参加者の共感を得ることができ

た講演会となった。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	4	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

役割分担、当面の目標は十分達成できたと考えられる。今後も継続的な事業を実施し、市民への啓発を行えるかが課題である。

・担当課側

青梅市獣医師会の主催による専門的な講演会を開催できたことで、災害時の動物避難への理解が得られたと思う。

13 その他

特になし

事業名 多摩川ハザードマップ作成&ハザードレクチャー動画制作



1 実施団体 NP0 法人リバーライフセービングクラブ青梅

2 担当課 企画政策課

3 実施時期 2025 年 10 月～2026 年 3 月

4 実施場所 多摩川上流（御岳溪谷～河辺下グラウンド）

5 事業の目的

本事業は、多摩川でレジャーやスポーツを楽しむ市民、そして観光客の安全を確保するため、川の危険箇所（急流域、深さのある場所、アンダーカット等水圧のかかる場所など）を可視化し、誰もがわかりやすく活用できる「多摩川ハザードマップ」を作成・公開することを目的としています。また、具体的に危険箇所がどのように見え、そこにどんな危険があるのかをより深く理解してもらうため、象徴的な場所について動画を制作します。事故防止の観点から、予防的な情報提供を行います。

6 役割分担

・団体の役割

- ー活動を通じた情報の収集・整理
- ーハザードマップ及び対処動画の制作・更新

・担当課の役割

- ーハザードポイントの特定に関する示唆、相談
- ーサイトの広報、周知（マスメディアへのリリース含む）

7 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

市民の安全意識の向上、水難事故の未然予防、観光・地域活性化との両立などを目指し、潜在的なハザード情報を「見える化」することができたと考えています。

ただし、情報にアクセスしてもらってこそ意味があるので、市民や観光客のみなさんに周知する取り組みはこれからの課題です。

8 目標達成

(1) 事業の目標：

- ①多摩川流域（御岳溪谷～河辺下グラウンドの区間）の危険箇所の実地調査を完了する。
- ②誰もがアクセスできる「多摩川ハザードマップ（Web 媒体）を作成・公開する。
- ③ハザードの怖さをより深く理解してもらうため、ハザード3種の再現・解説動画を制作する。

(2) 目標の達成具合：

①～③の目標については、一定レベル達成できたと考えている。③の動画については、最終的に多摩川上流にある5大ハザードのうち、増水時にしか出現しないハザードを除き、4種の動画を作成した。

9 事業の実施内容

- ・10月～11月にかけて、ハザードの情報収集を行い、対象範囲に存在するハザードの種類や、何をどこまでマップ及び動画に反映させ

るべきか等の議論を重ねた。

- ・12月4種のハザードポイントについて、撮影に使用する場所を特定し、現地で改めて調査の後ハザードレクチャー動画の再現映像を撮影。
- ・1月ハザードレクチャー動画の解説動画撮影。
- ・1月～2月ハザード箇所を特定を終了し、ハザードマップを作成。
- ・1月～2月特定されたハザードのポイントを撮影。
- ・1月～3月ハザードレクチャー動画の編集。
- ・2月～3月ハザードマップ及びハザードレクチャー動画をHPに反映。

10 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	3	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

11 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

今年度はハザードマップとハザードレクチャー動画の制作に注力したが、来年度はその周知・啓蒙に力を入れる必要があると考えている。また、川の状況は台風や大雨などにより、日々変化するため、

更新にも引き続き取り組んでいく。

・担当課側

打合せ時に話し合った動画については予算および時間の制約があったものの、概ねイメージ通りに完成した。

団体側の課題同様、周知に対して力を入れる時間が必要であるが、次年度以降、2か年にまたぐ協働事業についてもメニューが追加されるため、今後対象事業となった際は、余裕を持ったスケジュールが組め、より充実すると考える。

12 その他

事業名 青梅の森の恵みと IT がつなぐ心と体の健康ミライ



1 実施団体

NP0 法人青梅こども未来

2 担当課

健康福祉部健康課健康推進係

3 実施時期

2026 年 1 月 24 日（土）イベント当日

2026 年 2 月 27 日（金）運動継続応援メール送付

4 参加者

14 名（午前の部 5 名 午後の部 9 名）

5 実施場所

風の子太陽の子広場および青梅丘陵

6 事業の目的

青梅の豊かな自然環境を活用し、森林内での運動が心身の健康に与える効果を体験的に理解してもらうことを目的とした。併せてスマートフォンアプリを活用し運動効果を可視化することで健康意識の向上を図るとともに、森の魅力や環境変化について現地で情報提供を行い、森林環境への関心と理解の促進を目指した。

7 役割分担

・団体の役割

ノルディックウォーキング講師との調整および日程管理

使用機器・機材の準備

利用アプリの選定

広報用フライヤー等の作成

参加申込受付および事前連絡対応

当団体の SNS を活用した広報活動

・担当課の役割

関係部署（公園緑地課、高齢者福祉課等）との調整

市広報掲載手続き

うめ PON を活用した広報およびポイント対応

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

参加者は青梅丘陵の自然環境に触れながら運動することで、自然の中での身体活動が心身の健康に与える効果を実感する機会となった。アンケート結果からも高い満足度が確認され、自然環境への関心の高まりおよび健康行動の継続意欲が見られた。

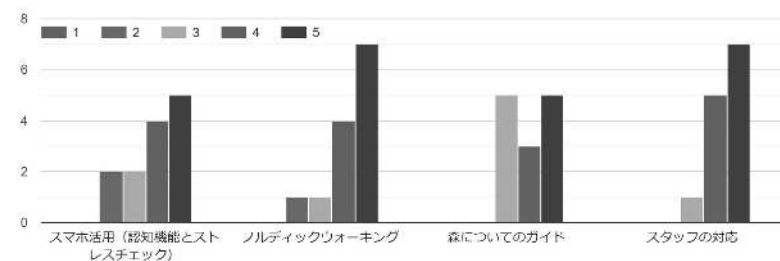
9 目標達成

事業の目標：

- ① 高齢者の健康促進に有効なノルディックウォーキングを専門家の指導のもと体験してもらうこと
- ② 健康ポイントアプリ「うめ PON」やストレス測定アプリ等を活用し、運動効果を可視化すること
- ③ 森林の重要性や課題について意識を高めることを歩くことを習慣化してもらう

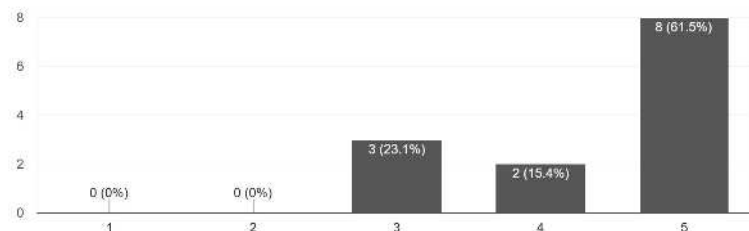
目標の達成具合：参加者アンケート（5段階評価）では全体的に高い評価が得られた。回答は13件（参加者のうち1名が中学生であったため）であり、満足度および再参加意向ともに良好な結果であった。

このイベントに関する以下の項目について、どのくらい満足されましたか。



ご自分の健康や生活向上に役立つ部分がありましたか。

13件の回答



自由記述では、

- ・森林環境保全に関する学習型イベントへの関心
- ・ウォーキングや登山など継続的な運動機会への期待
- ・健康と知識習得を両立する企画への要望

などの意見が寄せられた。

以上より、設定した目標は概ね達成されたと判断する。

10 事業の実施内容

1月24日（土）

午前の部：9時15分開始

午後の部：13時10分開始

健康アプリの説明と、体験ノルディックウォーキングの基本指導、森林内での実践歩行、森林環境に関する解説を組み合わせたプログラムを実施した。詳細は別紙のとおり。

2月27日（金）運動継続応援メール送付

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	2
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	2
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	3	2
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	2
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

参加者の確保が今後の課題である。定期的な開催により認知度を高めることで、継続的な参加者増加が期待される。

・担当課側

本企画は、双方の協力により円滑に実施された。しかし、健康寿命延伸のための目新しく、画一的でない取組を実施することを課題としていたところ、今回の企画においてその課題がクリアされたとまでは言えないものと捉えている。

13 その他

当初予定していた秋季開催は、熊の出没情報の影響により安全面を考慮して延期した。今後は野生動物対策を含む安全管理体制の整備を継続的に検討する必要がある。

また、事業開始前に担当課と十分な打ち合わせを行えたことで課題整理が進み、円滑な実施につながった。市民活動推進課の継続的な支援は、本事業の実施において大きな助けとなった。

事業名 和楽倶楽部流 笑ってつながる地域の輪



1 実施団体 特定非営利活動法人 和楽倶楽部

2 担当課 市民活動推進課

3 実施時期 令和7年11月22日（土）

4 参加者 51名
内訳：講師3名、和楽倶楽部スタッフ20名
市民活動推進課2名、一般参加者26名

5 実施場所 今井市民センター 体育館

6 事業の目的

- ① 各地域で活動するジャンルを超えた団体同士がつながりをもち、地域活性化のきっかけとなる
- ② やることは「笑う」「楽しむ」だけ。年齢や性別、障がいの有無に関係なく参加できるイベントで多世代にわたり集まれる、楽しく交流できる機会をつくるため

7 役割分担

- ・ 団体の役割 企画・運営・広報
- ・ 担当課の役割 企画・会場確保・広報

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

年齢など一切の制約なく参加者を募ったことにより、子ども、大人、高齢者、障がいのある人もない人も参加いただけた。はじめて顔を合わせる人たちと笑いヨガで笑い合い、触れ合い、巨大ジェンガ大会で協力し合い競い合うことで普段の生活の中だけではなかなか難しい参加者の属性を超えた交流ができた。

9 目標達成

事業の目標：

- ・ 地域で活動する団体に横のつながりをつくる
- ・ 参加対象者を限定しないことにより多世代の交流を図る
- ・ 参加者が、住居する地域に「顔見知り」をつくる

目標の達成具合：

民生委員を含めて、いろいろなつながりができたと思いました。地域づくりを考えている団体はいろいろあり、そここの次なる協働が生まれれば、今後もつながり続けられると思います。

10 事業の実施内容

- ① 『笑いヨガ』
ラフターヨガインストラクターを招き「笑いヨガ」を参加者全員で学ぶ
- ② 『巨大ジェンガ大会』
参加者をグループ分けし巨大ジェンガ大会

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	3	3
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ・ 団体側
- ＊〈実施内容〉

・『笑いヨガ』の認知度がなかった。

＊〈ターゲット〉

- ・受付票を集計した結果、参加者は40歳代以上が多く、子供の参加は少なかった。多世代交流まではいかず、大人がターゲットの内容でした。
- ・シニア層が『笑いヨガ』で元気になる、地域の人と知り合いになるという企画でしたら効果がある企画だと思う。

＊〈開催日〉

- ・同日、畜産試験場でイベントが開催されており、集客が伸びなかった。
- ・当日終盤は体育館もだいぶ寒くなり、開催日の検討も必要ではないか。

＊〈広報〉

- ・チラシを2,400枚印刷、近隣の小学校・中学校に全員配布をしたが生徒児童の参加が少なく、費用対効果が少なかったのではないか。
- ・自治会に回覧もお願いしたが、ポスターを作成し、市民センター、自治会の掲示板、近隣の商業施設等に掲示してもらい、ある一定期間目に付くようにしたらどうか。
- ・今井地域を中心とした地域の人に参加してもらうため『広報うめ』に掲載しなかったが、『市民センターだより』に掲載してもらえたら良かったのではないか。

・担当課側

【日程】

- ・イベントが多い時期に開催日を設定すると、実績のないイベントは集客の面で不利だということがわかった。

【会場】

- ・参加者の年齢層が幅広いイベントにおいて体育館は環境が厳しいことがわかった。会議室での開催を検討したい。

【広報】

- ・参加者の地域を限定したイベントのため広報活動をかなり限定して行った結果、集客の難しさを痛感した。
- ・広報については地域の市民センターに相談しアドバイスを受けるべきであった。

【参加者】

- ・子どもとその親世代の参加が少なかったため、こどもの親世代へのアプローチの仕方や子ども自身が参加したいと思うきっかけをイベントに組み込む必要があると感じた。

【全体】

- ・和楽倶楽部のパワーがとても心強かった。常に前向きな発想で引っ張っていただいた。

・地域に根差した事業になるよう地域の市民センターとの協働を進めていきたい。

13 その他

〈参加者からの声〉〈振り返り 7.11.22〉

【参加者】

- ・すごく楽しかったです。（多数の意見）
- ・笑いヨガを体験して、言葉の使い方の大切さも勉強できました。
- ・笑って凄いと改めて知りました。
- ・巨大ジェンガではあんなに高く積み上げることができるとは思っていなかったけれど、いろいろとアイデアを出し合えて団結出来て、本当に楽しかったです。
- ・次回はお母さんと参加したいです。

【運営スタッフ】

- ・準備にすごく時間がかかり、いろいろと大変なことを身をもって知ることができました。
- ・一人一人が役割に徹して、準備、片付けまでスムーズに出来ました。わらつなメンバーの方たちは、初めての役割も上手で、みなさんの持っている力が出せる機会になったと思います。
- ・今回はわらつなのメンバー3人が表に出るようにしたいという思いがありました。3人のチームワークが良かったと思います。和楽のチームワークは凄いと思います。
- ・4月に3人のメンバーにこの企画をやって欲しいと声がかかり、不安がありました但し引き受けました。いろいろなことがありましたが、途中から強力なメンバーも加わり、大きなイベントになったと思います。みなさん、今日も自分で考えて動いていただき、ありがとうございます。
- ・今回、この事業は今井の地域の顔の見える関係を作ることができたということで、他の地域のモデルケースにできると思います。この輪を他の地域にも広げていくというのを狙いとしています。これができるのは市民活動推進課のフォローアップ、笑いヨガで会場をあたためてくれたWAKOさんがいてくれたからです。そして盛り上がったのは子どもたちのおかげです。みなさん、お疲れ様でした。（理事長）
- ・今日は男の人もとくさん笑ってくれていました。「笑いは最良の薬」という言葉があります。この輪をこの町にどんどん広げてゆけたらいいと思います。（WAKOさん）
- ・仕事ではあるが、楽しかったです。和楽さんをお願いして良かったです。（五十嵐さん）
- ・和楽の人たちは団結していて凄いと思いました。（清水さん）
- ・今回みなさん楽しんでもらったので企画としては成功だったと思います。
- ・当初の目的は充分達成できたと思う。

- ・大人数にもかかわらず、事故もなくスムーズに開催できた。
- ・主催者のメンバーの絆も深まり来年も是非開催したい。
- ・今回はとても良かったと思いますが、今後もつながるための工夫を一緒に考えていければと思います。
- ・参加者が増えるとまとめるのが難しいかもしれないが、地域を広げるのもよいかと思った。
- ・周知方法を検討する必要がある。
- ・参加者の人数を把握するのが難しく配布物の準備に苦労したので、確認方法を考えたい。
- ・準備もみなさん協力的で時間に余裕があったので 次はもう少し遅めの集合でも大丈夫そうですね。
- ・ラフターネームの活用をもっとできたらよかったと思いました。
笑いヨガで名前を呼びあうことがなかったのが残念でした。
せっかく、ネームホルダーも作ったので、ジェンガで呼び合うとかしたら、良かったと思いました。